

VTホールディングス株式会社

2015年3月期 通期 決算説明会

2015年5月



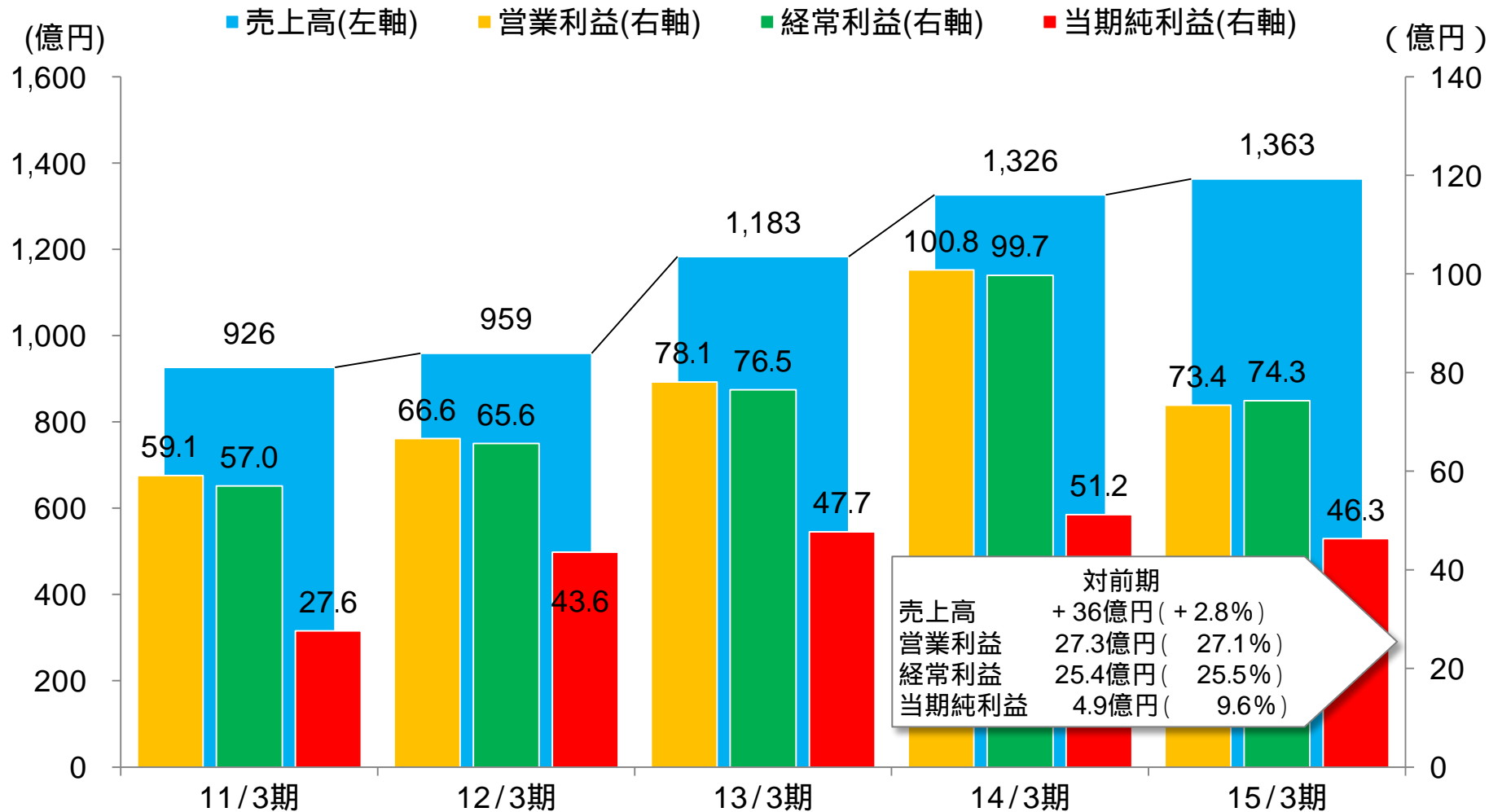
2015年3月期 通期 決算サマリー

- Ⅰ 売上高1,363億円は、過去最高
- Ⅰ 営業利益73億円、経常利益74億円、当期純利益46億円
はいずれも過去3番目
- Ⅰ グループ合計自動車販売台数 74,593台
 - 新車販売台数 27,485台 (前年同期比 3,942台 12.5%)
 - 中古車販売台数 47,108台 (前年同期比 675台 1.4%)
- Ⅰ 財務体質の改善
 - 自己資本は、前期末比30億円増加し、**309億円**
 - 自己資本比率は、**33.3%**とほぼ横ばい(前期末比 0.6%)
- Ⅰ 当期のM&A
 - 日産サテオ奈良、エムジーホーム、SCOTTS MOTORS ARTARMON、
GRIFFIN MILL GARAGES の4社

2015/3期 P/L

M&A等により増収を確保したが、消費税増税等の影響により減益

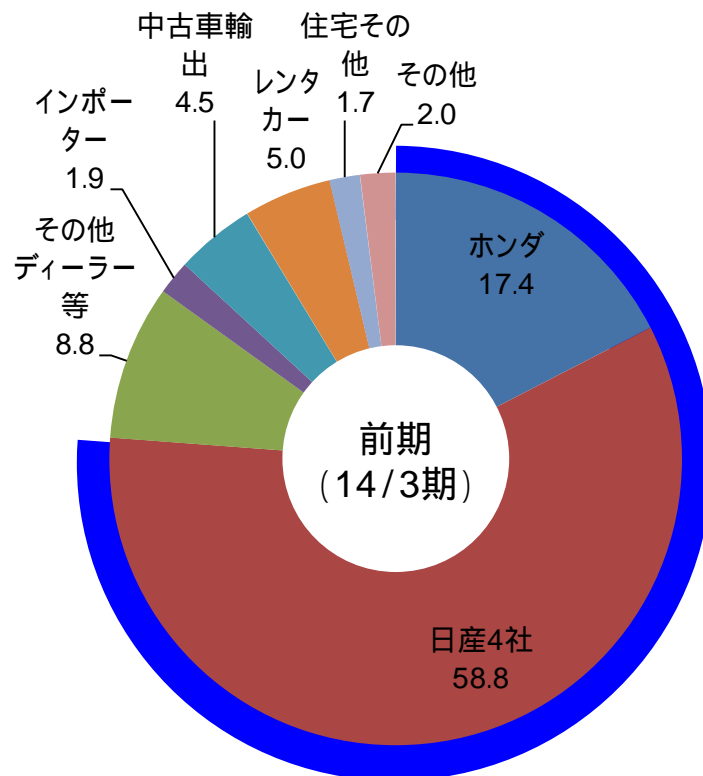
売上高は5期連続で過去最高を更新したが、リーマンショック（09年3月期）以来6期ぶりの減益となった
営業利益、経常利益、当期利益は、いずれも、昨年・一昨年に続く過去3番目の水準



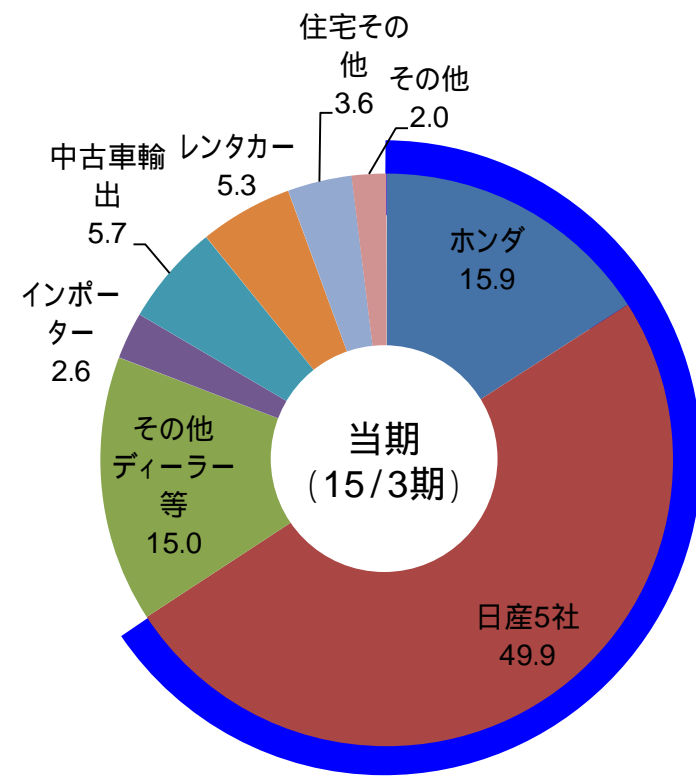
売上高構成

主要6社で全体の65.8%、日産系ディーラーの比率が49.9%

主要6社は、ホンダカーズ東海と日産系ディーラー5社で、連結売上高1,363億円のうち896億円を占める
M&Aにより子会社数が増加したため、主要6社の構成比は減少



主要5社76.2%



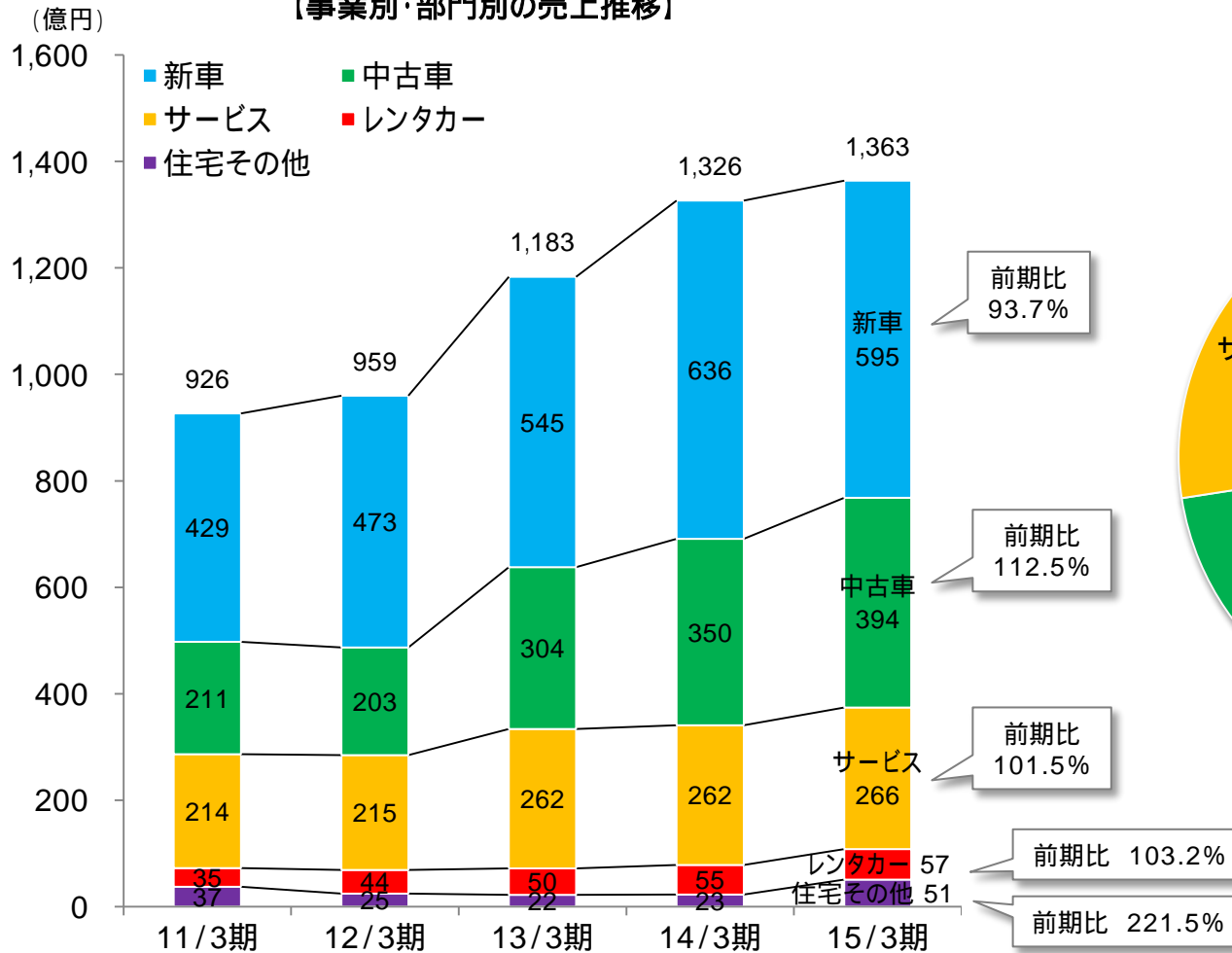
主要6社65.8%

事業別・部門別売上高

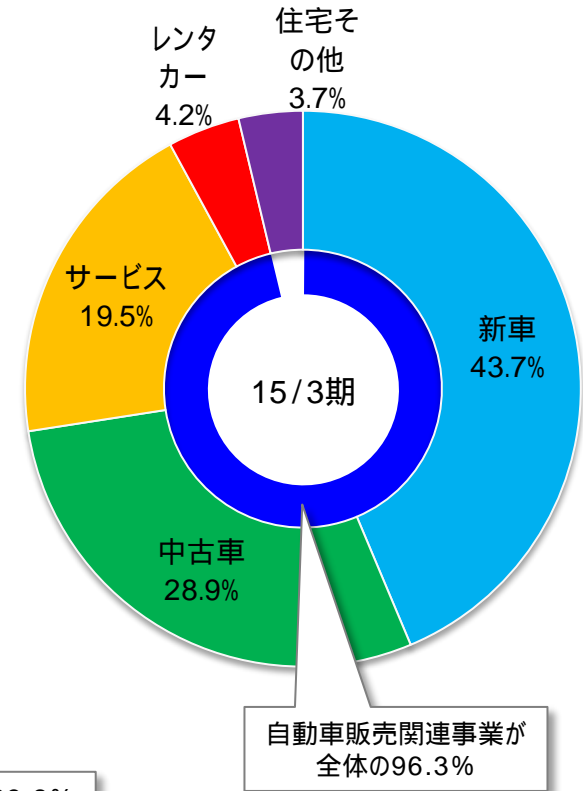
売上増加は、主に中古車部門+43億円、住宅その他+27億円

主に、自動車ディーラー3社のM&Aと、エムジーホームの子会社化による

【事業別・部門別の売上推移】



【事業別・部門別売上高構成】



「新車、中古車、サービス、レンタカー」が、自動車販売関連事業となります。「住宅その他」は、住宅関連事業とその他の合計となります。

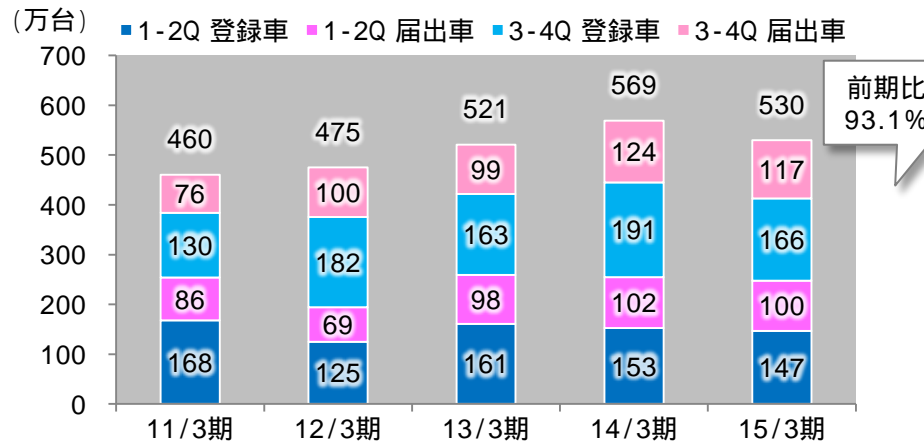
部門別の状況 - 新車部門

消費増税、節約志向等の影響により、前年比マイナスに

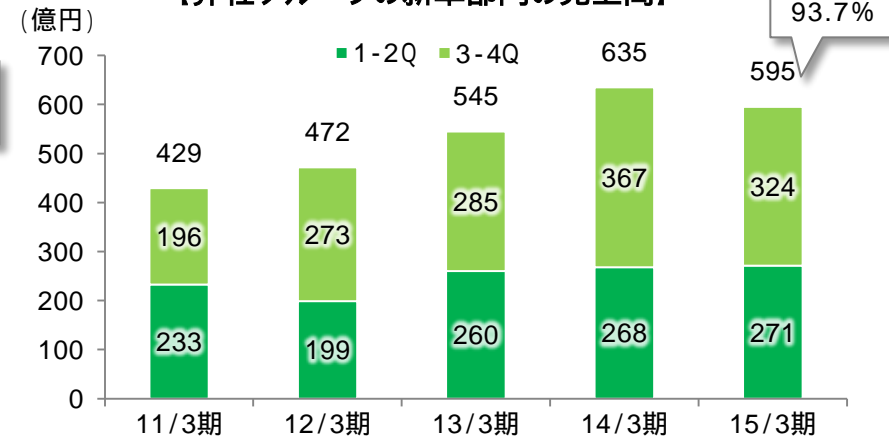
国内新車市場における販売台数は、前期比93.1%で登録車・届出車ともに減少

国内新車市場と同様に、当社グループの新車販売台数も12.5%減少し、減収減益（6.3%減収、8.4%減益）

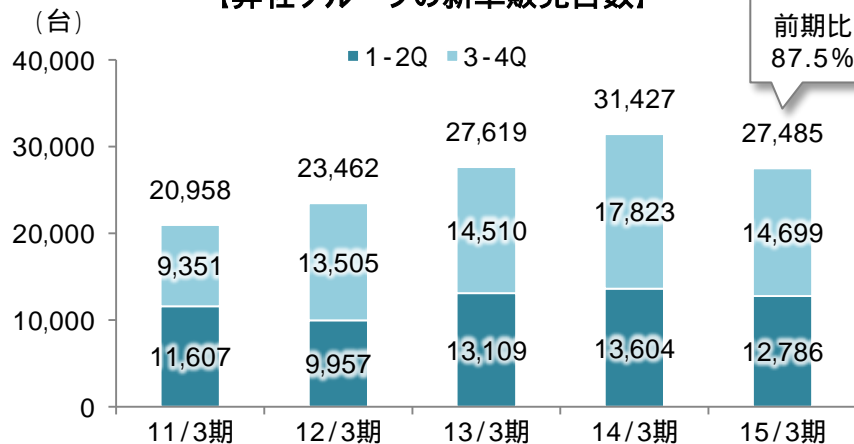
【国内新車市場の推移】



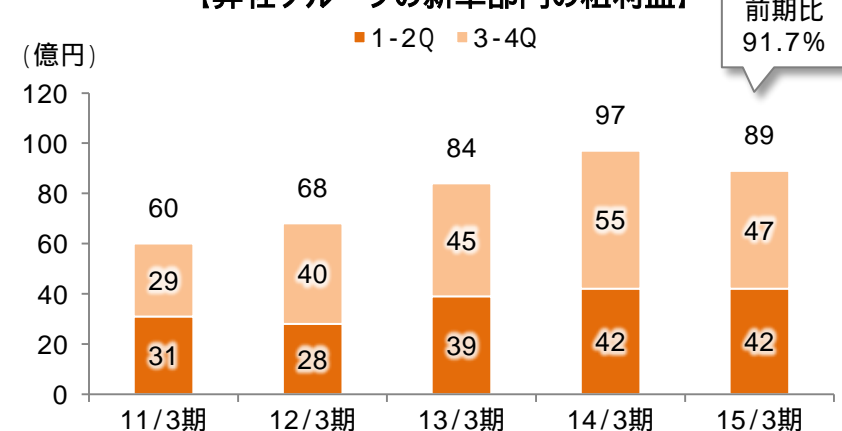
【弊社グループの新車部門の売上高】



【弊社グループの新車販売台数】



【弊社グループの新車部門の粗利益】



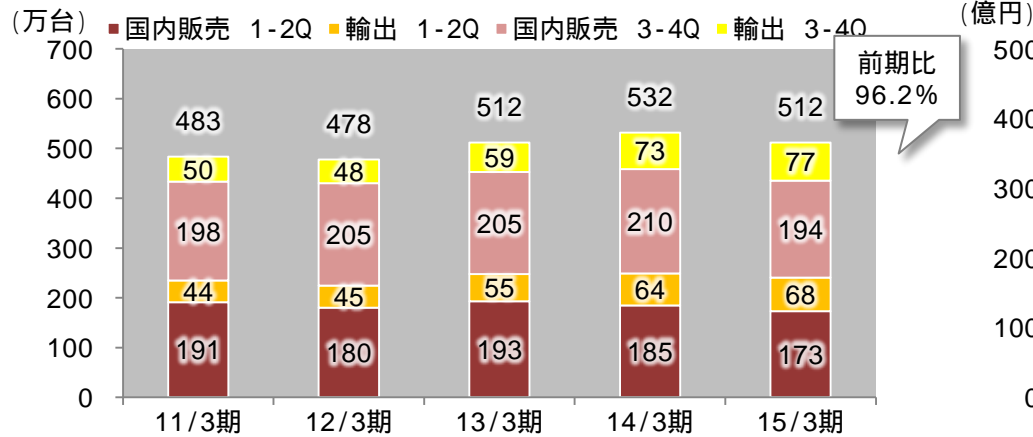
部門別の状況 - 中古車部門

販売環境の停滞により、増収減益

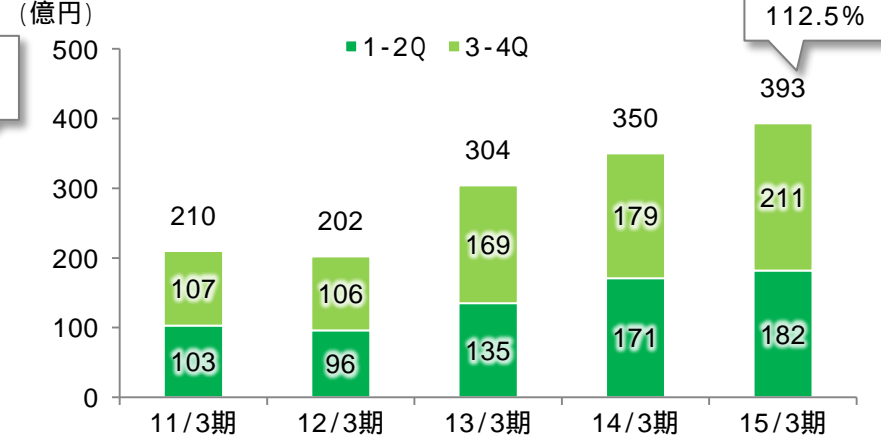
中古車市場は、輸出台数が増加したものの、国内が減少し前期比96.2%に減少

当社グループの中古車部門は、高価格帯の取引増加により売上高が前期比112.5%となる一方、粗利益は85.2%に減少

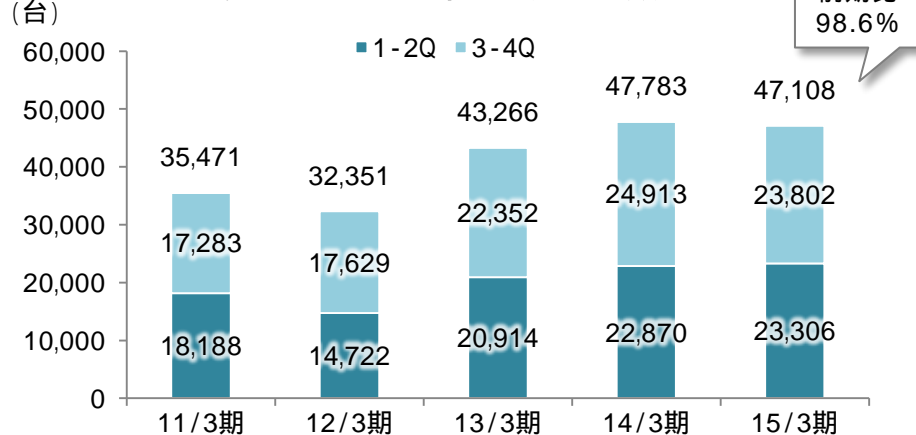
【中古車市場の推移】



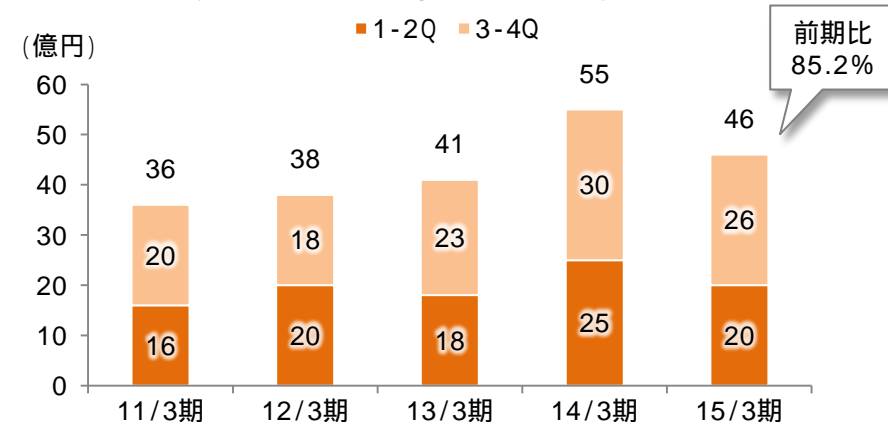
【弊社グループの中古車部門の売上高】



【弊社グループの中古車販売台数】



【弊社グループの中古車部門の粗利益】

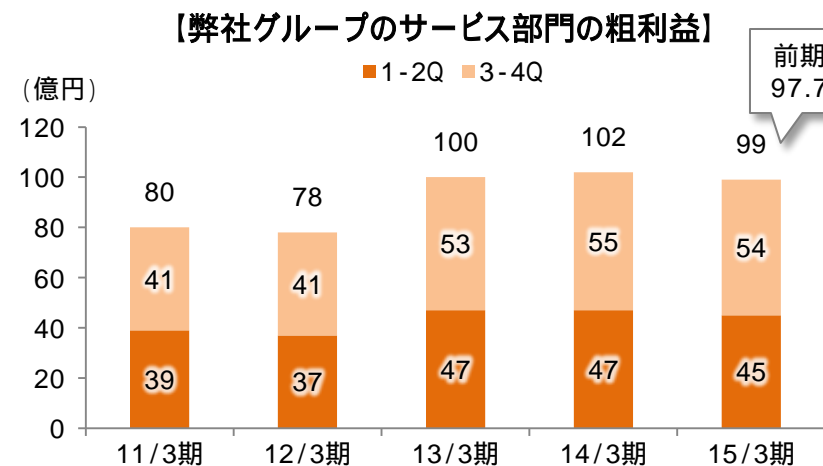
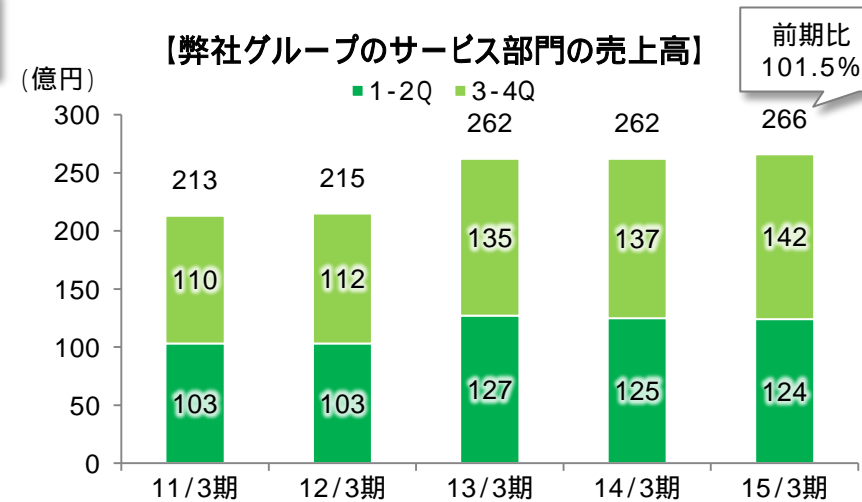
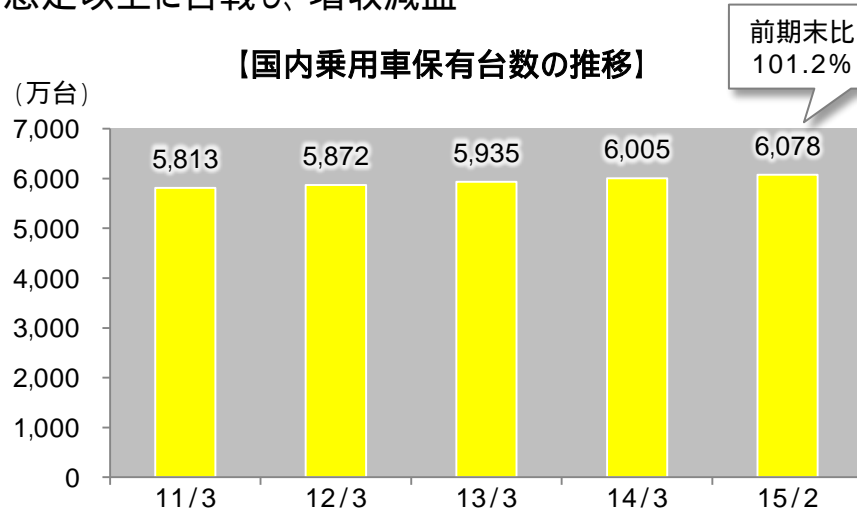


左上図 中古車市場における国内販売台数、輸出台数は、自販連の中古車登録台数、中古車輸出抹消台数であります。

部門別の状況 - サービス部門

当社グループのサービス部門は、前期並みの売上高、粗利益

東日本大震災・リーマンショック後の新車販売低迷時期（3年前・5年前）の車検応当年度であり、車検対象台数が少ないことで想定以上に苦戦し、増収減益



基盤収益カバー率

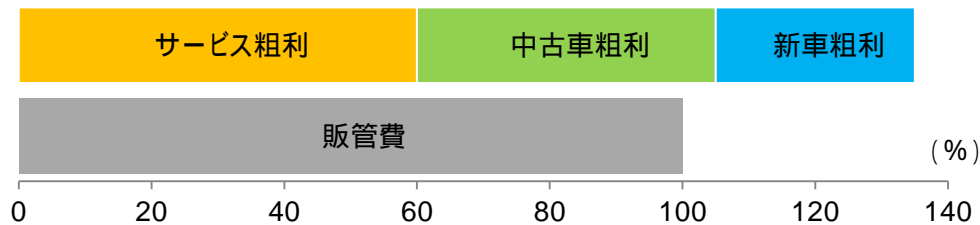
主要ディーラー平均 104.7%

「新車が売れなくても赤字にならない企業体質」

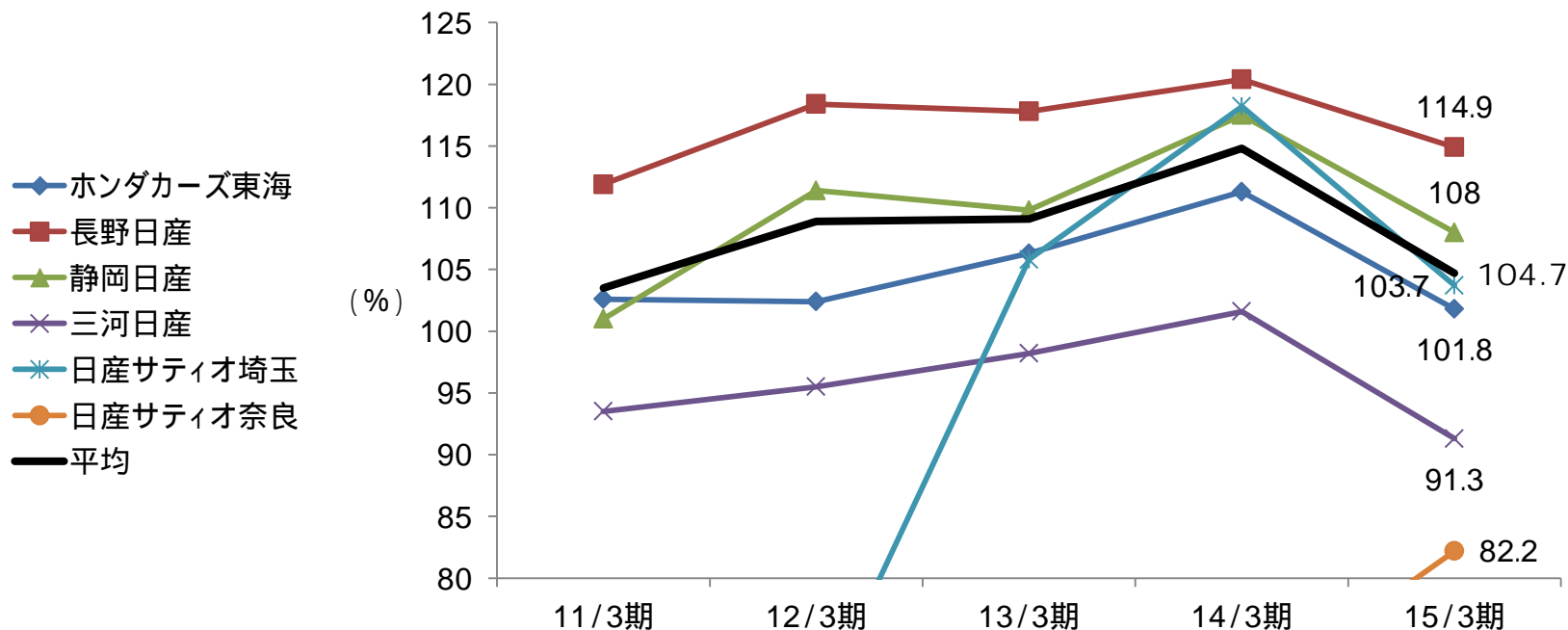
…新型車の発売等の外部要因に左右されやすい新車部門以外でコストを賄い、収益の基盤を確保

主要6社がグループの売上高の66%

基盤収益カバー率 = 新車以外の粗利益 (+) ÷ 販管費
(新車以外の部門の利益で、販管費をどの程度カバーできるかを表す指標)



【基盤収益カバー率の推移】



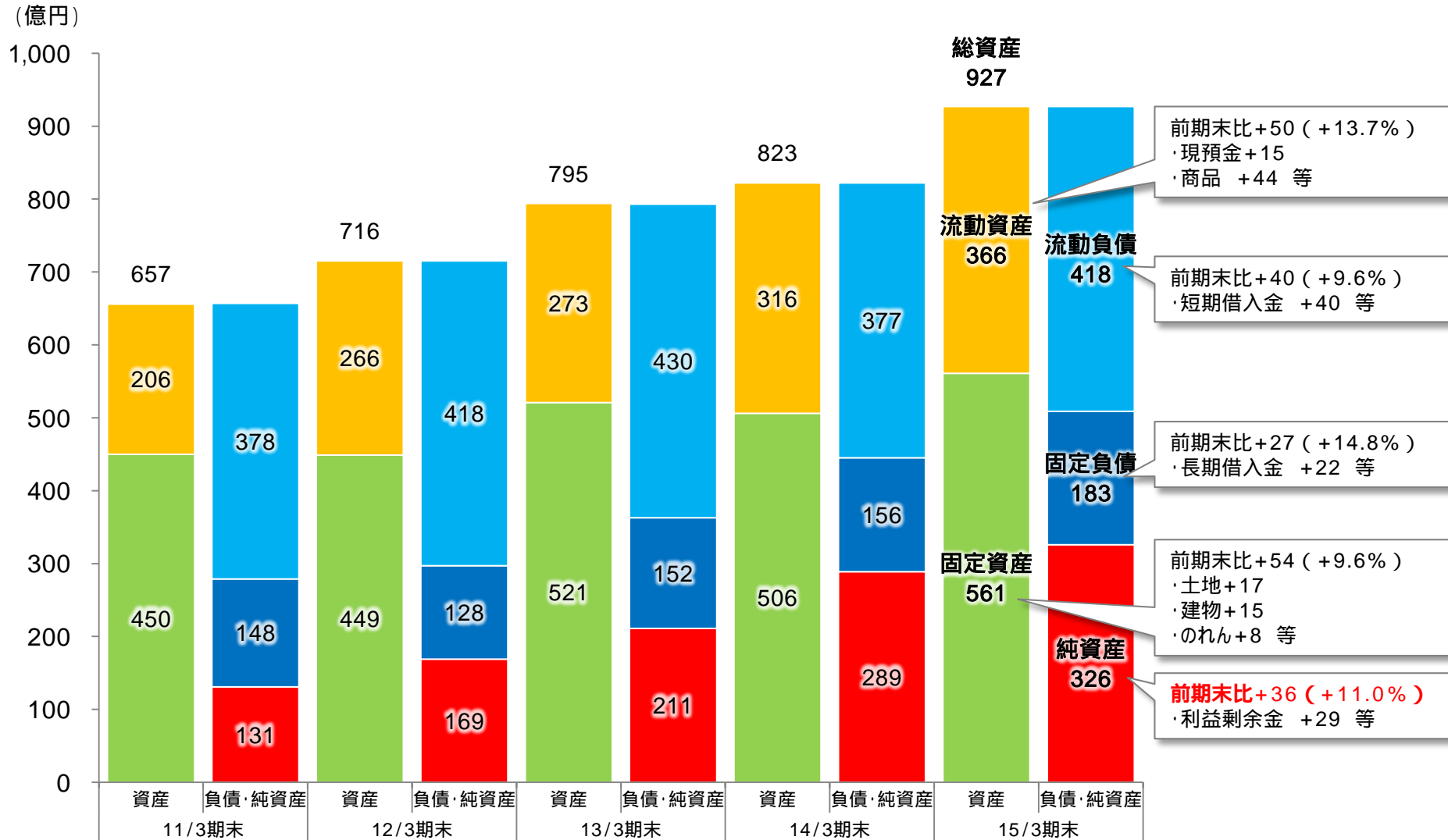
基盤収益カバー率については、連結調整など考慮前の各社個別の決算数値に基づき、一部6社比較の為に修正を行っております。

平均は、各社の売上高に応じて、加重平均しております。

2015年3月期 B/S

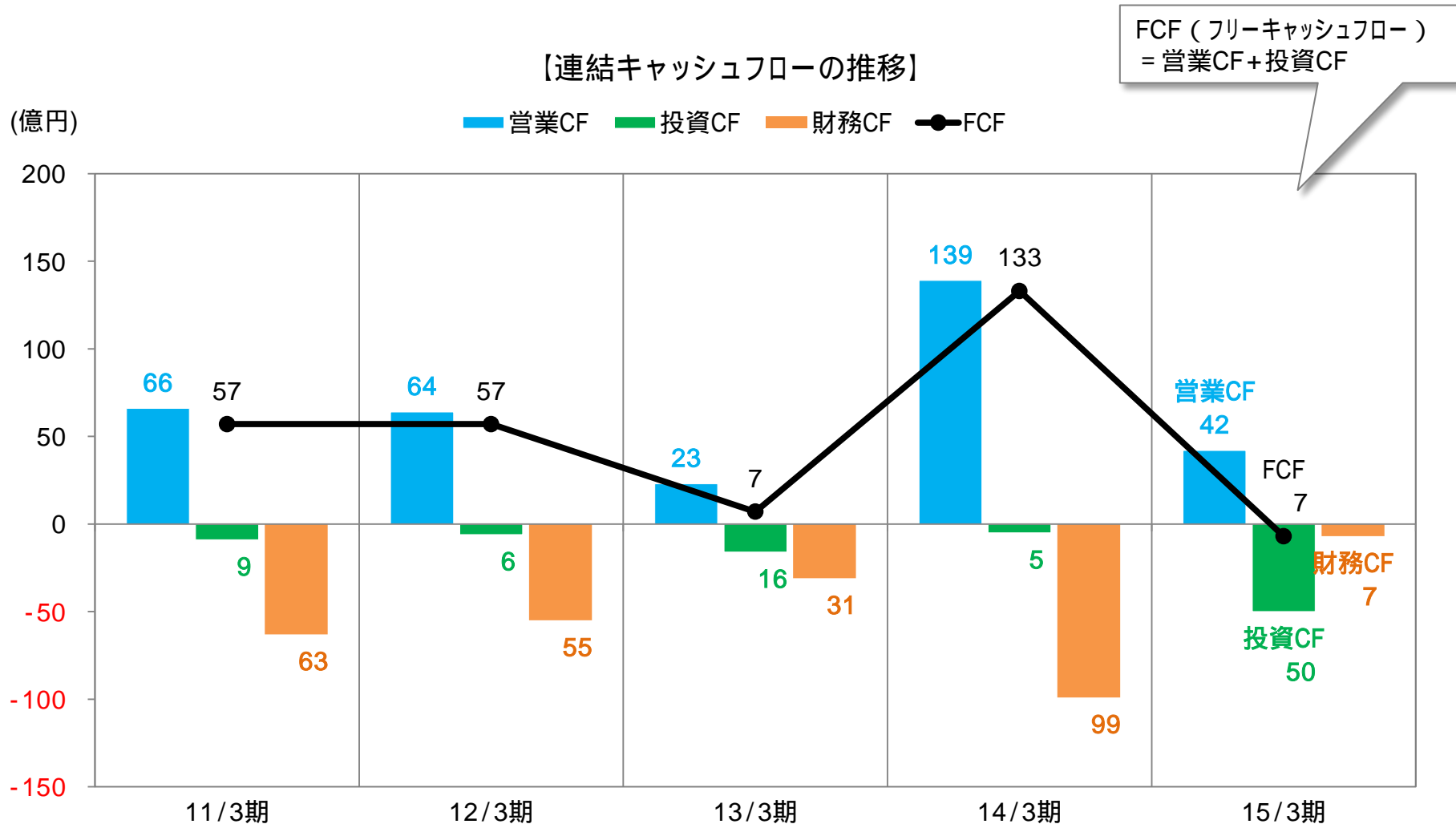
M&Aの影響により、総資産が増加

総資産増加額（104億円）のうち、M&Aに伴う増加分が95億円



M&Aや新規出店等に伴う投資額が増加

借入金の圧縮が一巡し（財務CF 7億円）、M&Aや新規出店等の成長戦略を展開（投資CF 50億円）



主な子会社 ホンダカーズ東海



HONDA

<愛知県尾張、岐阜県西濃>

- ・新車 2.6拠点
- ・中古車 1拠点

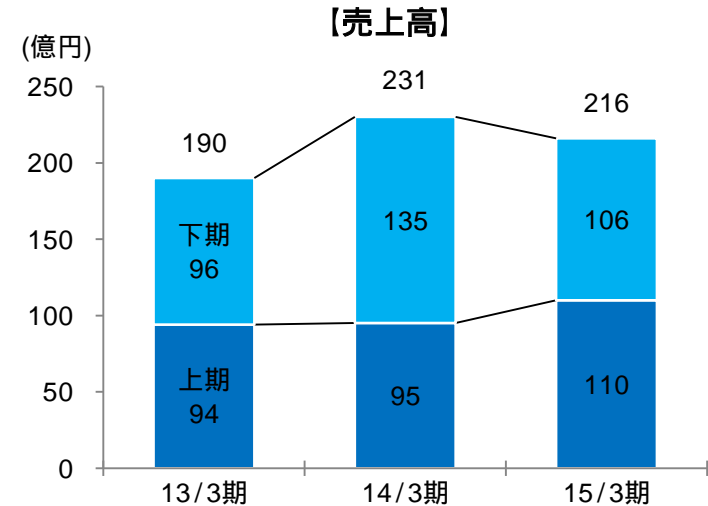
減収減益

7月に常滑市にりんくう常滑店を新規OPEN

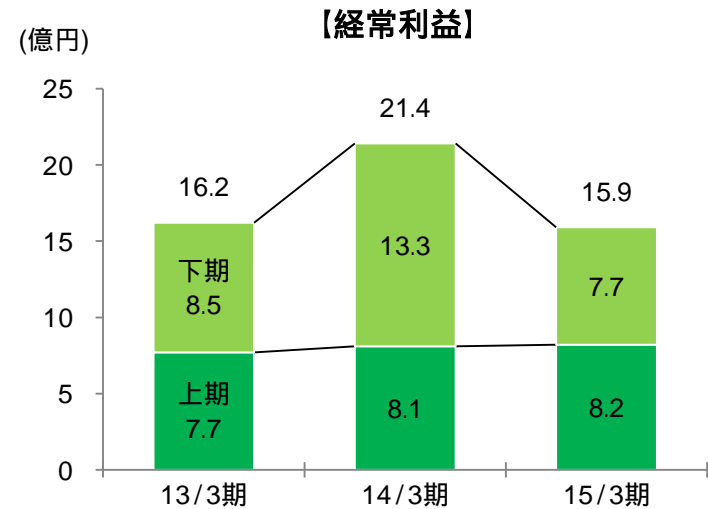
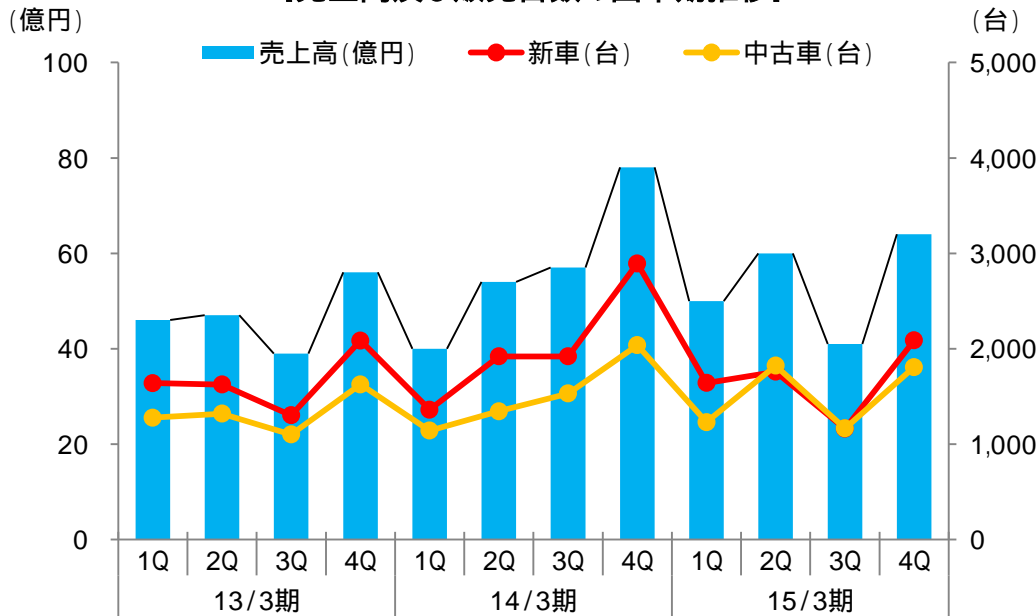
売上高経常利益率 7.4% (前年同期 9.3%)

連結売上高に対する構成比 15.9% (2015年3月期)

上場時の母体企業でもあり、ここで培われた運営ノウハウがグループ傘下の他のディーラーに注入され、収益性強化に寄与



【売上高及び販売台数の四半期推移】



ホンダ車のトピックス



HONDA

2015年3月期

12月 GRACE (グレイス) 登場(12/1)
新型ハイブリッドセダン



N-BOX SLASH登場(12/22)
Nシリーズ第5弾の新型軽自動車



2月 JADE発売 (2/13)



2016年3月期

4月 S660発売 (4/2)
新型 2シーター・オープンスポーツ



ステップワゴン
/ステップワゴンスパード (4/24)
5代目ステップワゴン登場



5月 SHUTTLE (5/15)



<p>NBOX <small>NEW</small></p> <p>N BOX</p>	<p>Nbox+ <small>NEW</small></p> <p>N BOX +</p>	<p>N <small>NEW</small></p> <p>N-ONE</p>	<p>Life</p> <p>ライフ</p>
<p>FIT <small>NEW</small></p> <p>フィット</p>	<p>FIT SHUTTLE <small>NEW</small></p> <p>フィット シャトル</p>	<p>FREED</p> <p>フリード</p>	<p>Spiko</p> <p>フリード スパイク</p>
<p>FIT <small>NEW</small></p> <p>フィット ハイブリッド</p>	<p>FIT SHUTTLE <small>NEW</small></p> <p>フィット シャトル ハイブリッド</p>	<p>FREED</p> <p>フリード ハイブリッド</p>	<p>Spiko</p> <p>フリード スパイク ハイブリッド</p>
<p>INSIGHT <small>NEW</small></p> <p>インサイト</p>	<p>CRZ <small>NEW</small></p> <p>CR-Z</p>	<p>Accord <small>NEW</small></p> <p>アコード ハイブリッド</p>	<p>VEZEL <small>NEW</small></p> <p>ヴェゼル ハイブリッド</p>
<p>STREAM</p> <p>ストリーム</p>	<p>ODYSSEY <small>NEW</small></p> <p>オデッセイ</p>	<p>CRV</p> <p>CR-V</p>	<p>STEPWAGON <small>NEW</small> SPARO</p> <p>ステップワゴン ステップワゴン スパード</p>
<p>VAMOS</p> <p>バモス</p>	<p>ACTY <small>NEW</small></p> <p>アクティ・バン</p>	<p>ACTY <small>NEW</small></p> <p>アクティ・トラック</p>	

主な子会社 長野日産自動車



<長野県全域>

- ・新車 32拠点
- ・中古車 4拠点

2006年1月に連結子会社化

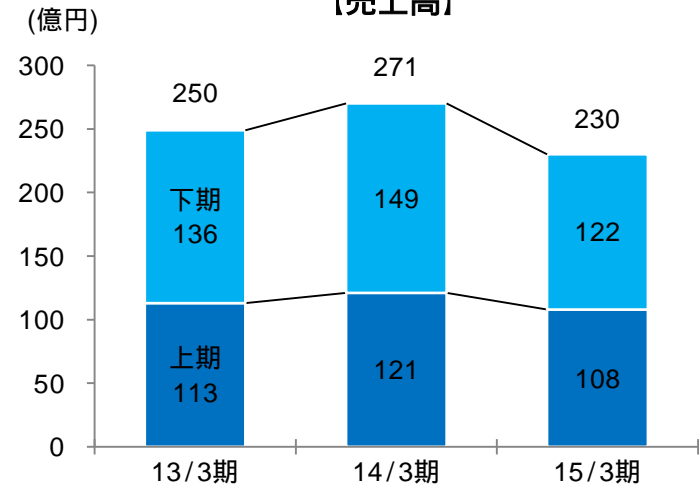
減収減益

6月に北部の須坂市に須坂店を新規OPEN

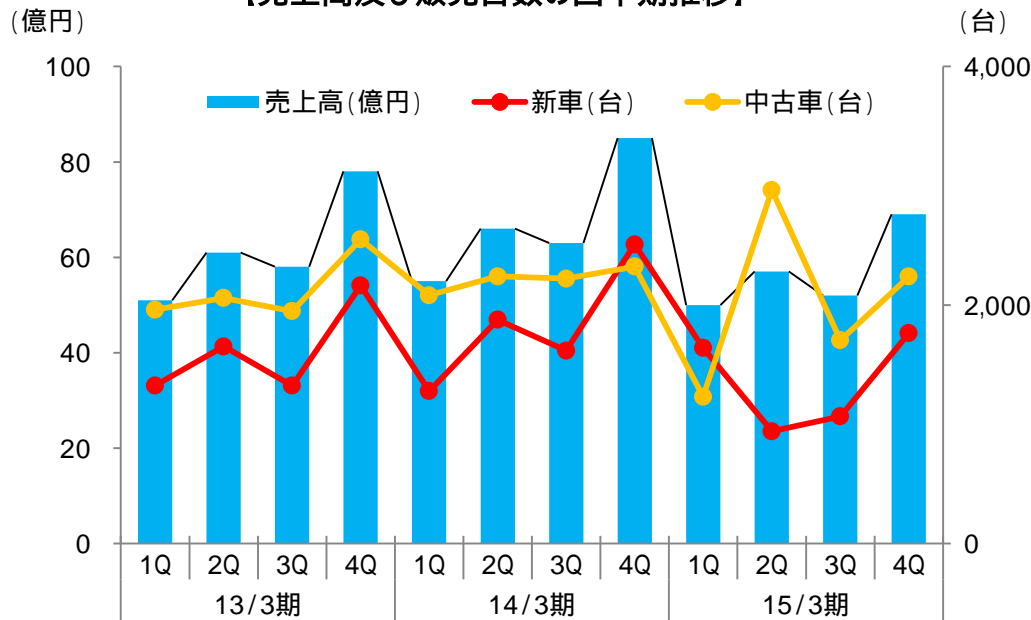
売上高経常利益率 10.5% (前年同期 11.5%)

連結売上高に対する構成比 16.9% (2015年3月期)

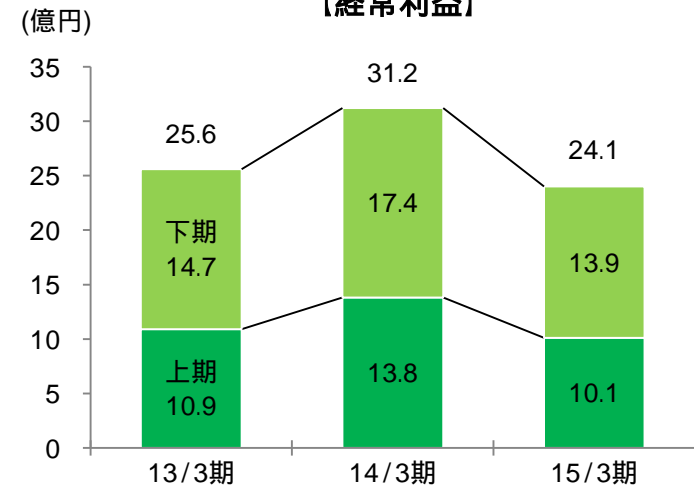
【売上高】



【売上高及び販売台数の四半期推移】



【経常利益】



主な子会社 静岡日産自動車



<静岡県中東部>

- ・新車 25拠点
- ・中古車 4拠点

2006年7月に連結子会社化

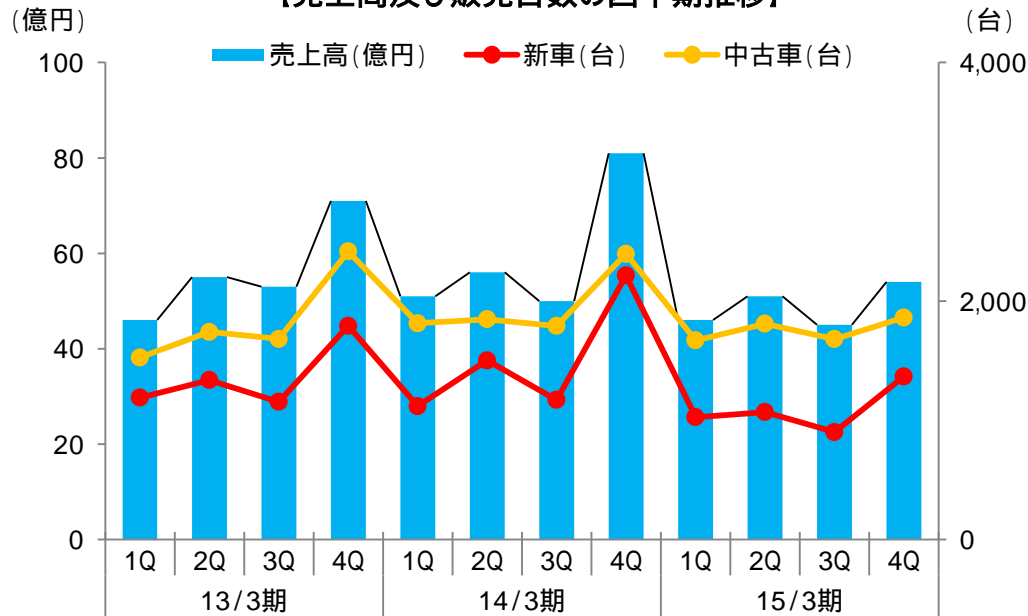
減収減益

8月に静岡市に平和店を新規OPEN

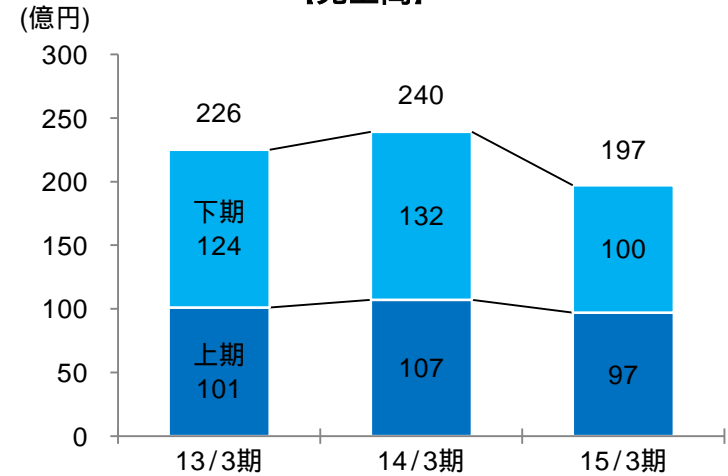
売上高経常利益率 9.2% (前年同期 8.4%)

連結売上高に対する構成比 14.5% (2015年3月期)

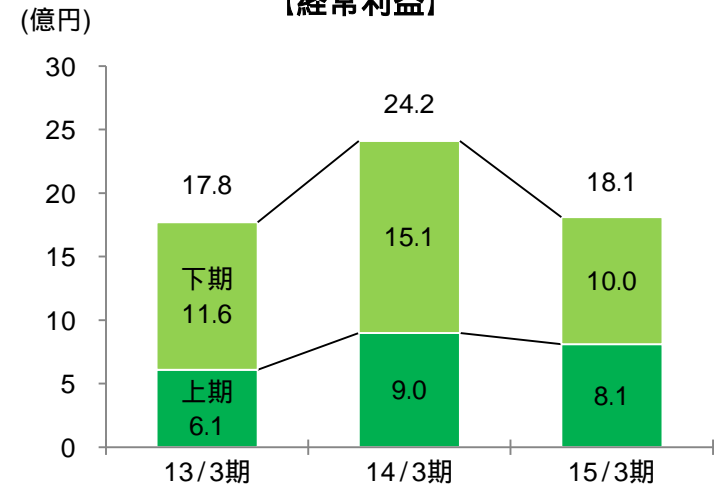
【売上高及び販売台数の四半期推移】



【売上高】



【経常利益】



主な子会社 三河日産自動車



<愛知県西三河>

- ・新車 11拠点
- ・中古車 2拠点

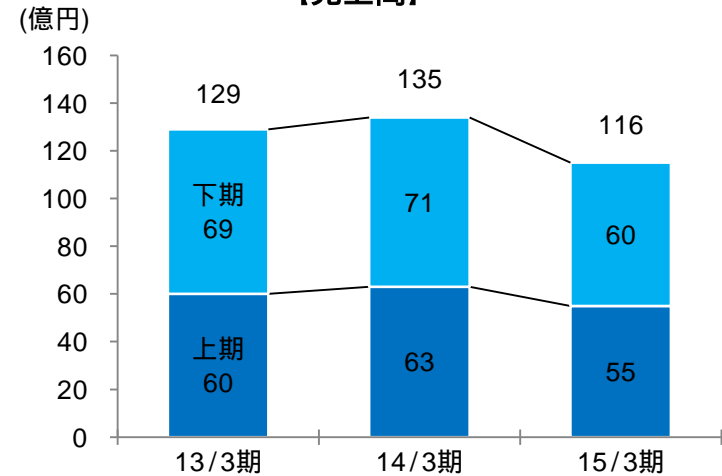
2006年7月に連結子会社化

減収減益

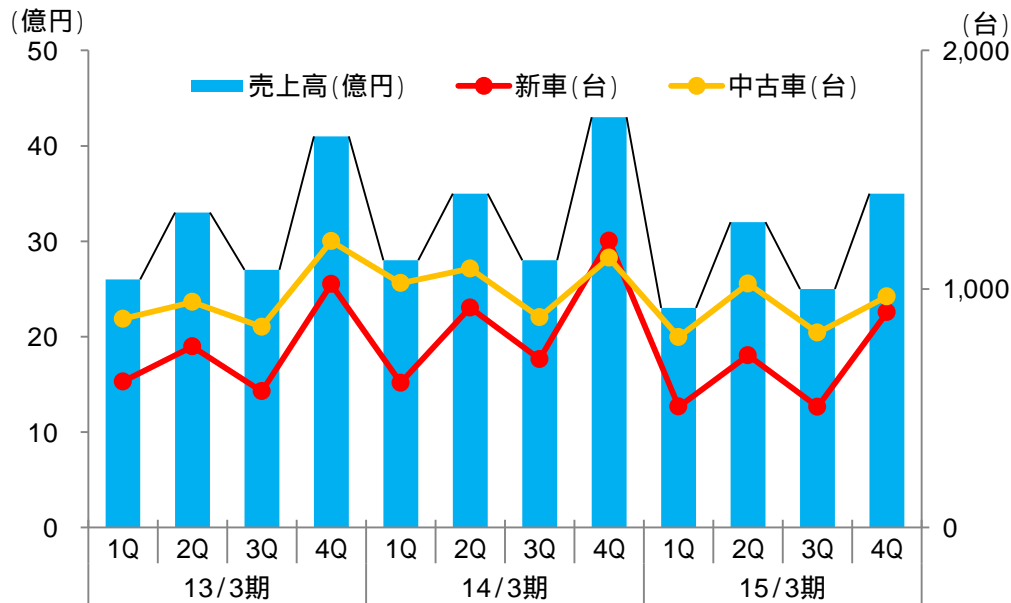
売上高経常利益率 5.5% (前年同期 6.6%)

連結売上高に対する構成比 8.5% (2015年3月期)

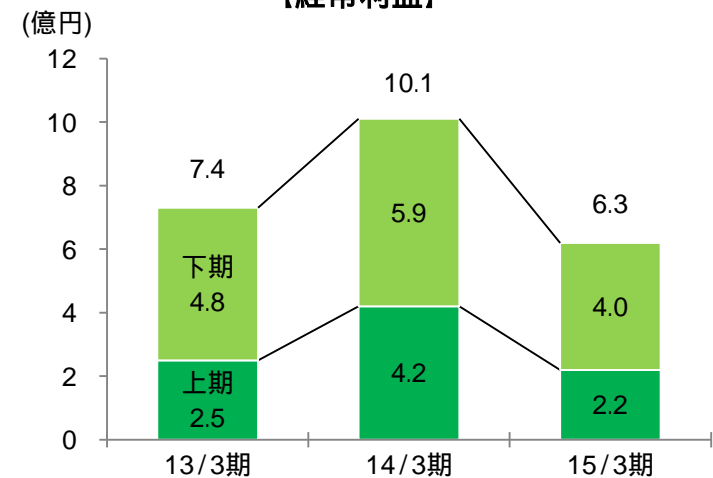
【売上高】



【売上高及び販売台数の四半期推移】



【経常利益】



主な子会社 日産サティオ埼玉



<埼玉県東南部>

- ・新車 17拠点
- ・中古車 1拠点

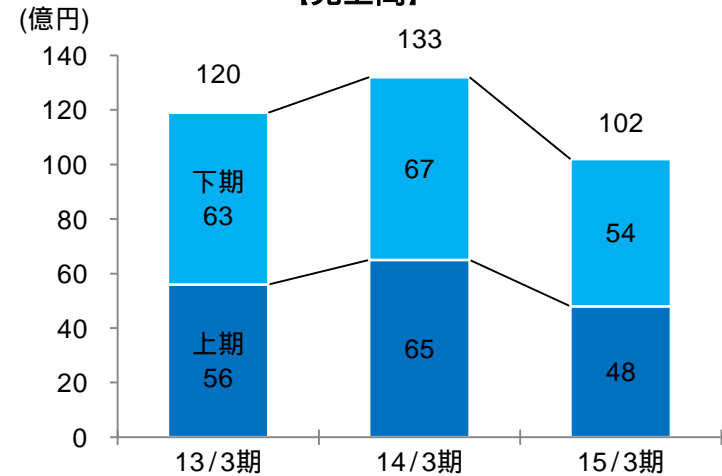
2012年4月に連結子会社化

減収減益

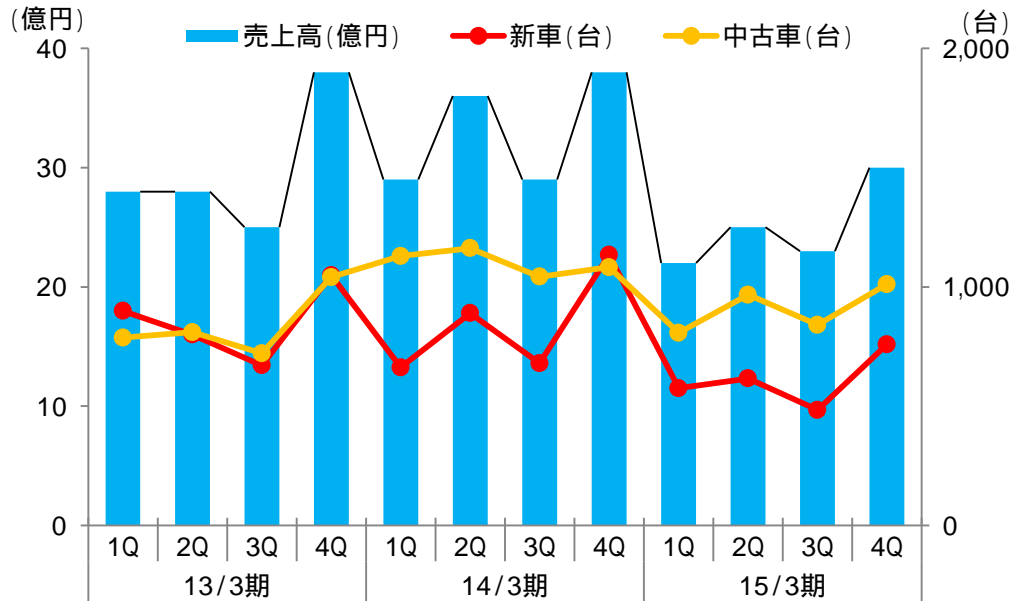
売上高経常利益率 4.3% (前年同期 6.5%)

連結売上高に対する構成比 7.5% (2015年3月期)

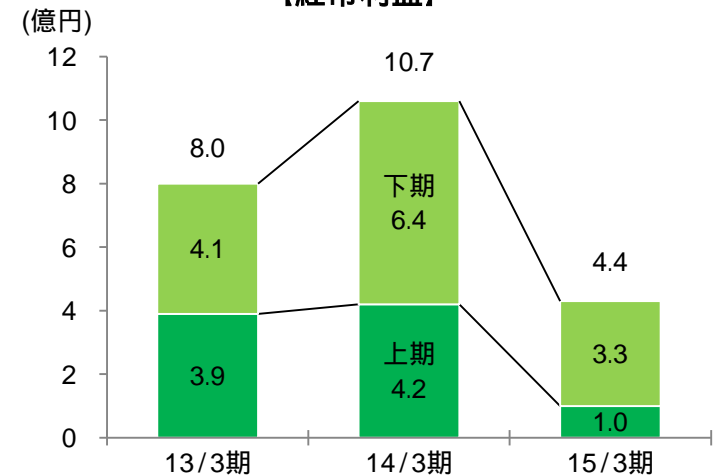
【売上高】



【売上高及び販売台数の四半期推移】



【経常利益】



主な子会社 日産サティオ奈良



<奈良県>

- ・新車 7拠点
- ・中古車 1拠点

2014年4月に連結子会社化

減収ながら増益を確保。

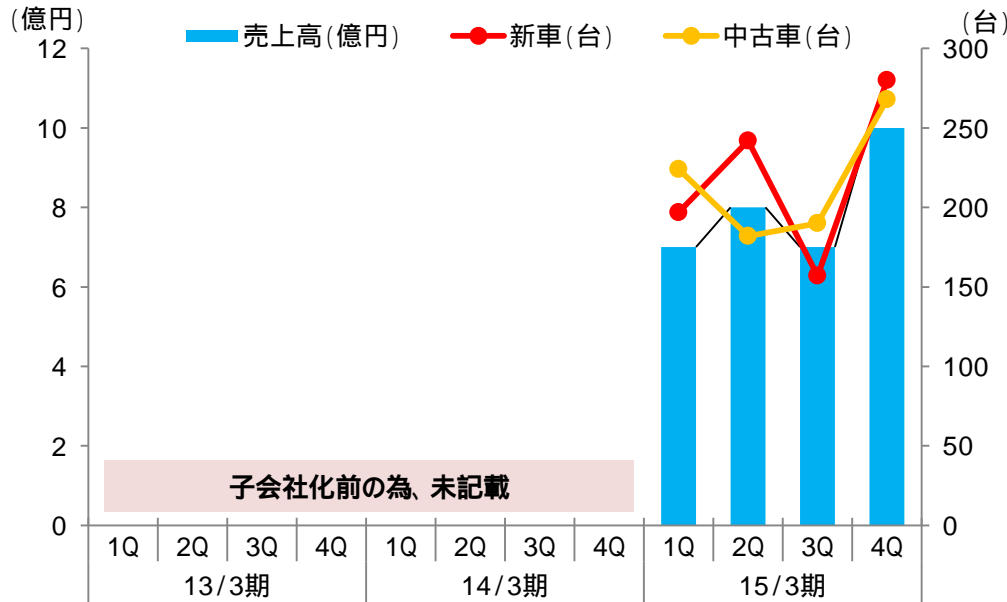
更なる利益拡大に向け、新経営陣による業務改善中。

3月に生駒店（奈良県生駒市）を新規OPEN。

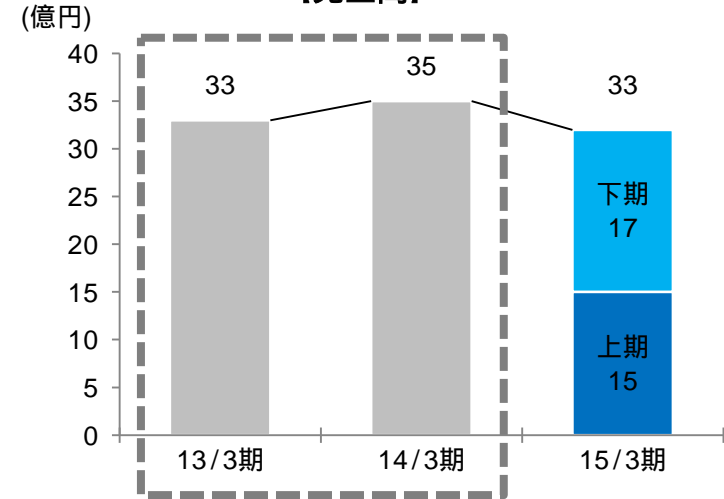
売上高経常利益率 1.8%

連結売上高に対する構成比 2.4%（2015年3月期）

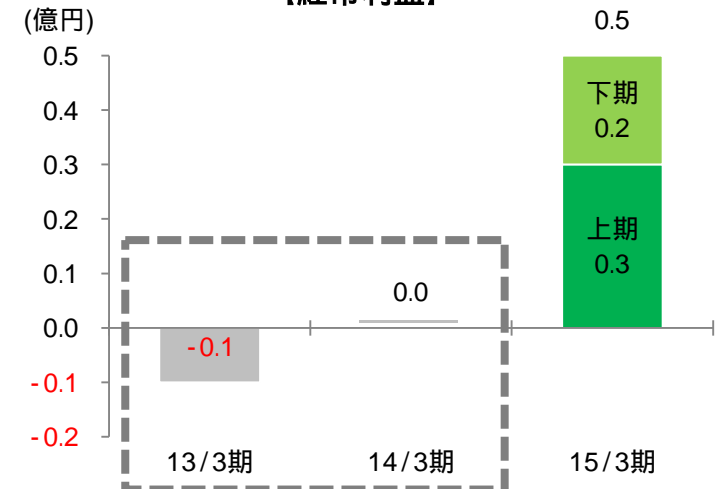
【売上高及び販売台数の四半期推移】



【売上高】



【経常利益】



点線で囲ってある14年3月期以前の売上高・経常利益は、当社連結業績とは関係なく、当社基準の監査等がなされていない参考数値となります。



2015年3月期

6月 スカイライン200GT-t発売

スカイラインに次世代
ターボ車がラインナップ
(6/5)



10月 e-NV200発売

電気自動車の商用車



10月 ノートをマイナーチェンジ

(10/10)



3月 NV100クリッパー/
NV100クリッパーリオ
発売 (3/3)



2016年3月期

5月 エクストレイル ハイブリッド

発売 (5/13)



ジューク	ノート	ノート メダリスト	キューブ	マーチ
ティズ	モコ	NV100クリッパー GXシリーズ	日産リーフ	NV200パレット
エルブランド	セレナ	ラフェスタ ハイウェイスター	ウイングロード	NV350キャラバン
GT-R	スカイライン クーペ	フェアレディZ	スカイライン クロスオーバー	ムラーノ
エクストレイル	デュアリス	シルフィ	ラティオ	
シーマ	フーガ ハイブリッド	フーガ	スカイライン	ティアナ

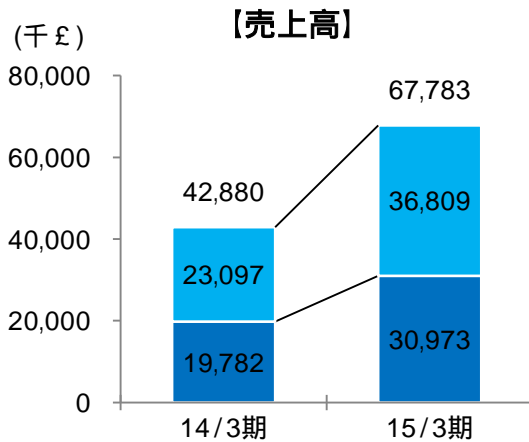
海外ディーラー

CCR

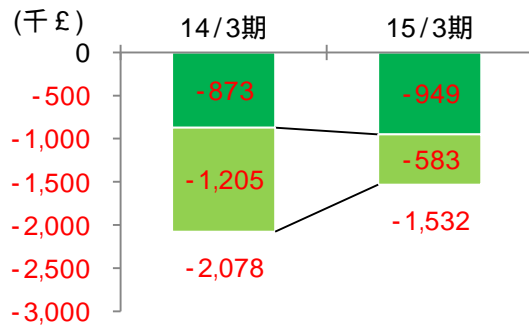


英国ロンドン及びイングランド南西に
新車9拠点を擁する三菱自動車ディーラー
(2012年4月に子会社化)

売上高構成比 8.8% (2015年3月期)



【経常利益】



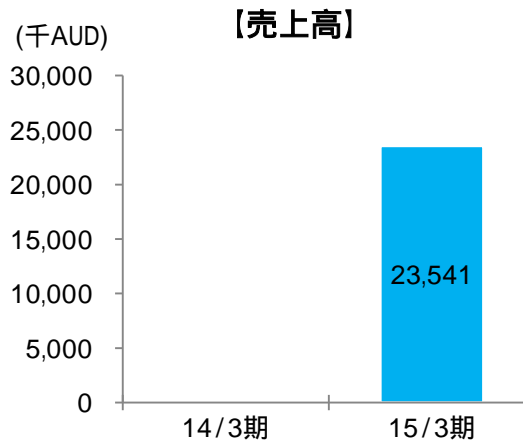
2015年3月期は、176.80円/£。

SCOTTS

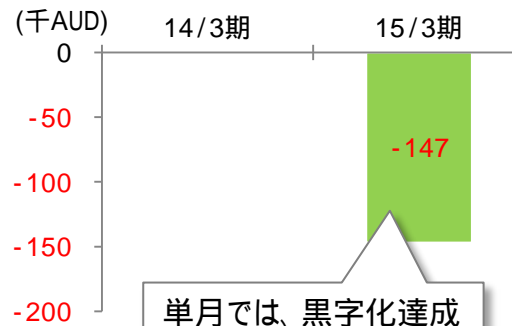


オーストラリアでホンダのディーラーを2店舗展
開 (2014年10月に子会社化、今期の数
値は、約5か月分)

売上高構成比 1.7% (2015年3月期)



【経常利益】



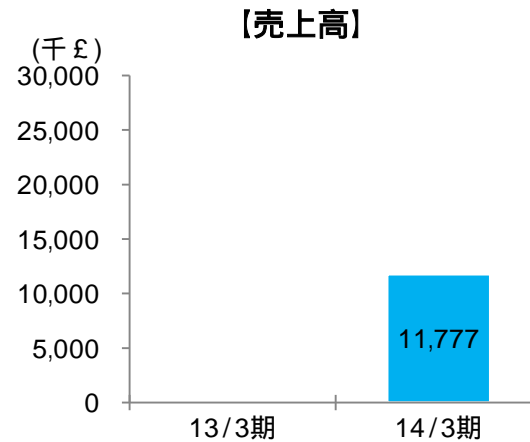
2015年3月期は、95.82円/AUD。

GMG

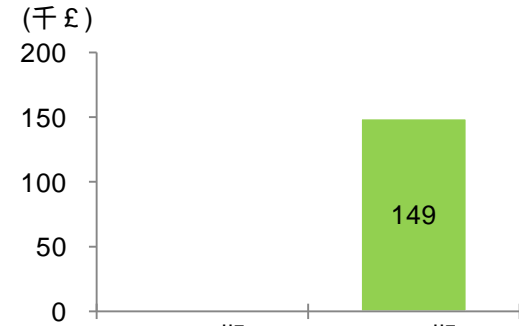


イギリスで新車ディーラー2店舗を展開
(2014年12月に子会社化、今期の数値
は、約4か月分)

売上高構成比 1.9% (2015年3月期)



【経常利益】



2015年3月期は、180.48円/£。

主な子会社 トラスト



東証マザーズ上場 (3347)

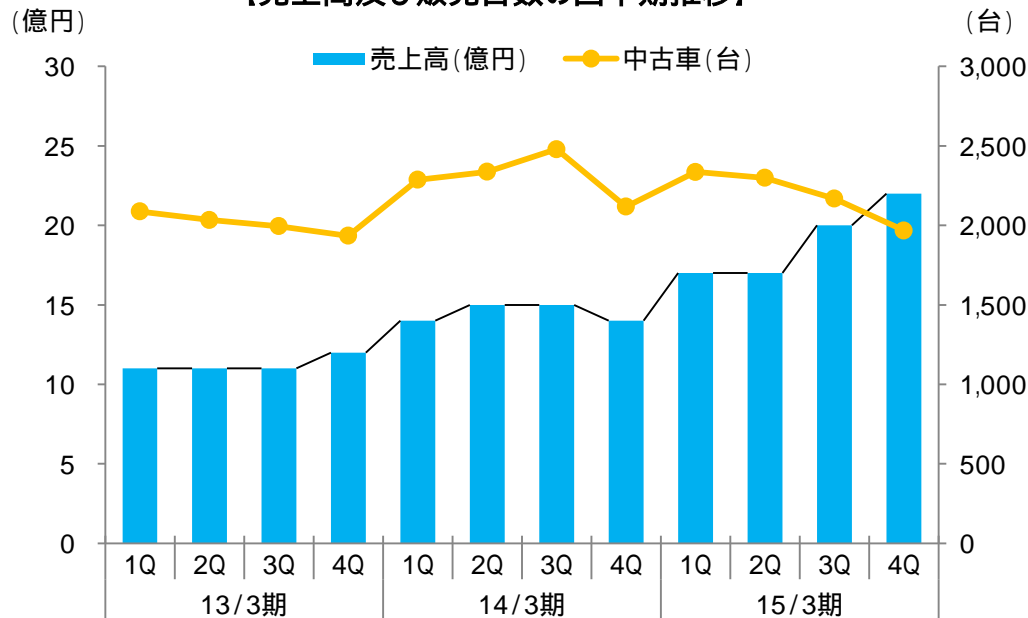
車両ラインアップの強化、WEBサイトの改善、一部B2B販売の強化等に加え、主力のアフリカ地域での陸送サービス、アフターサービスの充実を図り、販売は堅調に推移。

高額商品の増加により販売単価が増加したものの、仕入車両のオークション価格が上昇したことで、利益率が低下し、増収減益。

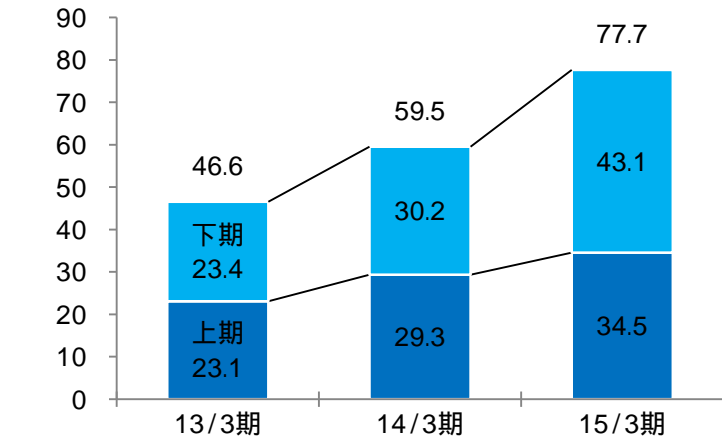
売上高経常利益率 5.6% (前年同期 6.8%)

連結売上高に対する構成比 5.7% (2015年3月期)

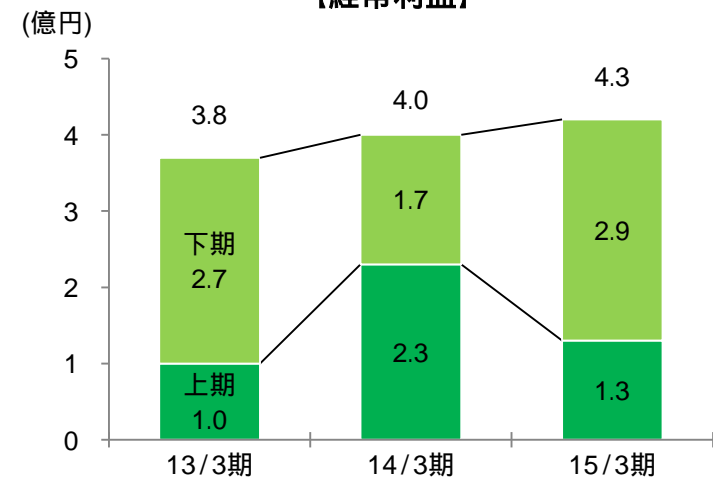
【売上高及び販売台数の四半期推移】



【売上高】



【経常利益】



主な子会社 J-net レンタリース



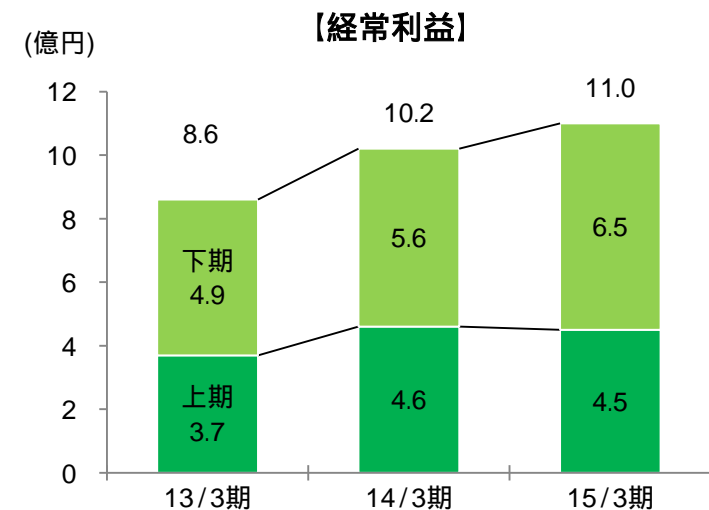
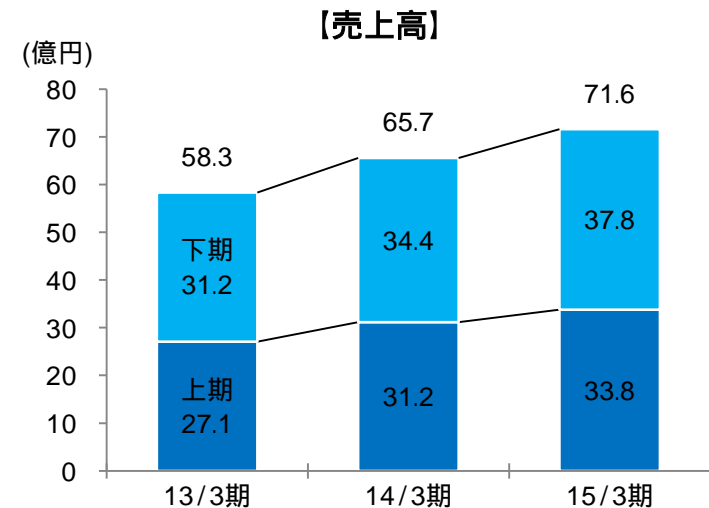
直営店 33店舗
 F C店 86店舗
 計 119店舗
 (2015年3月末時点)

新規出店の効果もあり増収となるも、経常利益は横ばい
 予約サイトの強化、TVCMの継続実施等、個人顧客の獲得に注力
 売上高経常利益率 15.4% (前期 14.6%)
 連結売上高に対する構成比 5.3% (2015年3月期)

レンタカー保有台数は、国内第6位

1. トヨタレンタカー	107,076台
2. オリックスレンタカー	55,996台
3. ニッポンレンタカー	28,211台
4. タイムズレンタカー	26,018台
5. 日産レンタカー	18,211台
6. Jネットレンタカー	12,440台
7. ジャパンレンタカー	7,546台

2015.03時点。交通毎日新聞調べ。



グループの自動車販売拠点数

M&Aによる自動車ディーラー3社の子会社化及び既存会社の新規出店により拡大

(2015年3月31日現在)

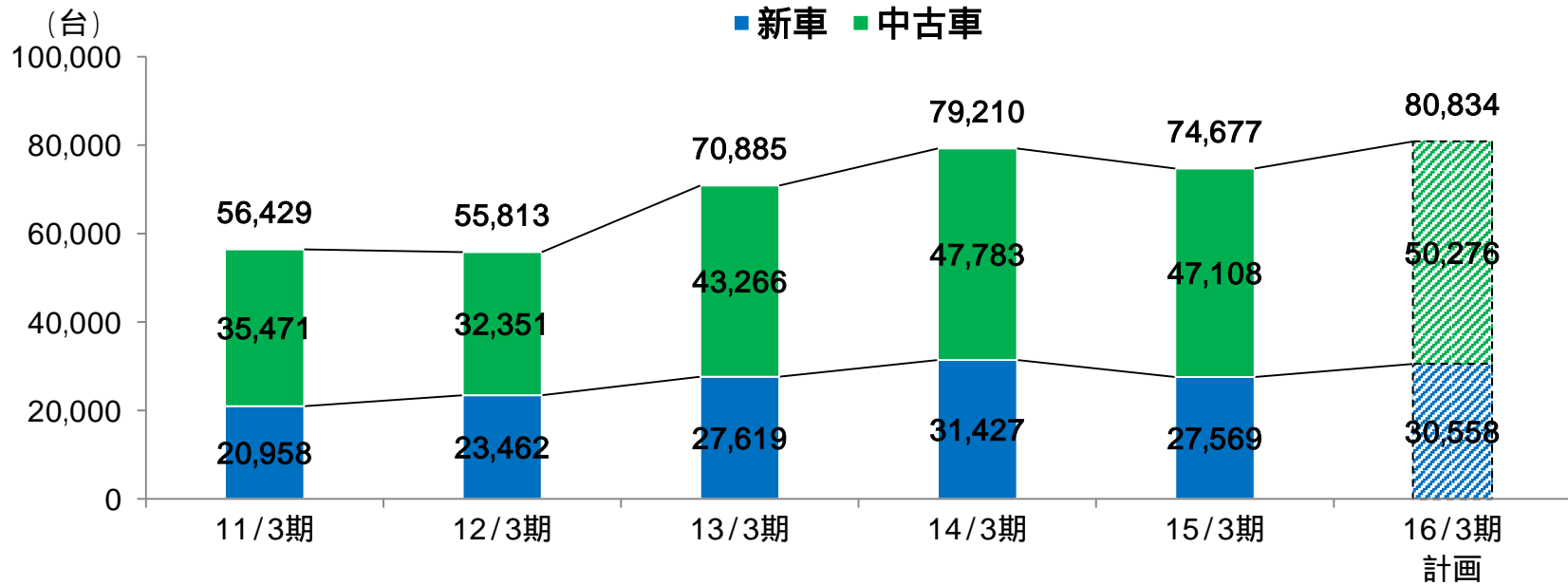
2014年4月1日付けで子会社化

集計区分		会社名	ブランド	新車店舗	中古車店舗	拠点合計
国内	ホンダ	(株)ホンダカーズ東海	ホンダ	26	1	27
	日産	長野日産自動車(株)	日産	32	4	36
		静岡日産自動車(株)	日産	25	4	29
		三河日産自動車(株)	日産	11	2	13
		(株)日産サテオ埼玉	日産	17	1	18
		(株)日産サテオ奈良	日産	7	1	8
	その他のディーラー	(株)フォードライフ中部	スズキ フォード	5 3	5	13
		VTインターナショナル(株)	ブジョー/ シトロエン	1		1
	輸入車インポーター	エルシーアイ(株)	ロータス	2		2
	レンタカー	J-netレンタリース(株)	—		1	1
小計				129	19	148
海外	その他のディーラー	Trust Absolut Auto	フィアット/ アルファロメオ ブジョー	1 1		2
		Sky Absolut Auto	スズキ	3		3
		CCR Motor	三菱	9		9
		Scotts Motors Artarmon	ホンダ	2		2
		Griffin Mill Garages Limited	日産/ キア/ フィアット/ ブジョー	2		2
小計				18	-	18
合計				147	19	166

2014年10月24日付けで子会社化

2014年12月5日付けで子会社化

グループの自動車販売台数

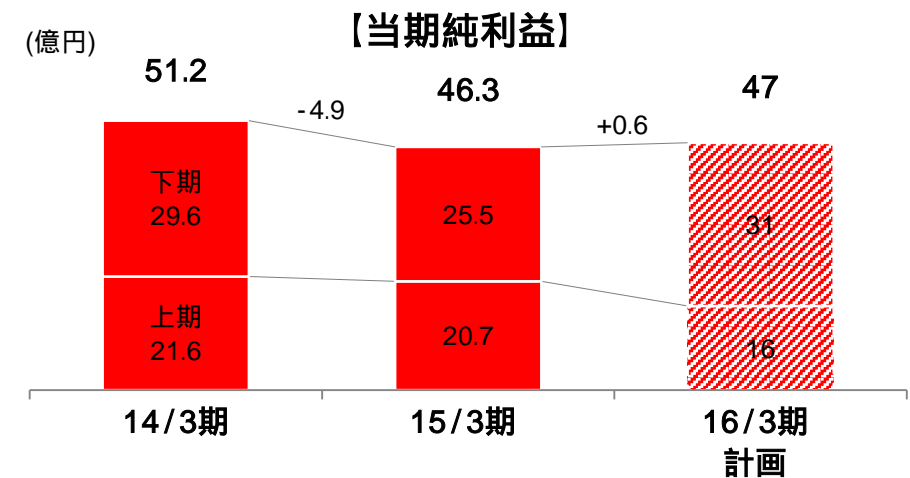
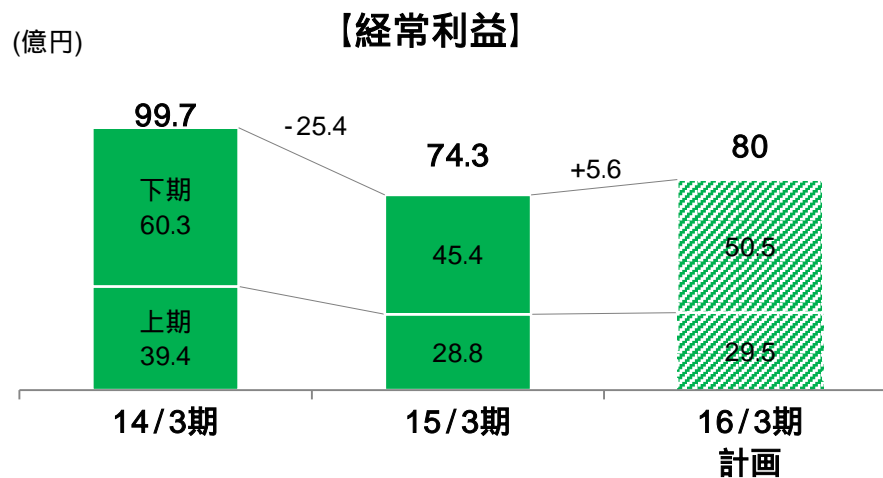
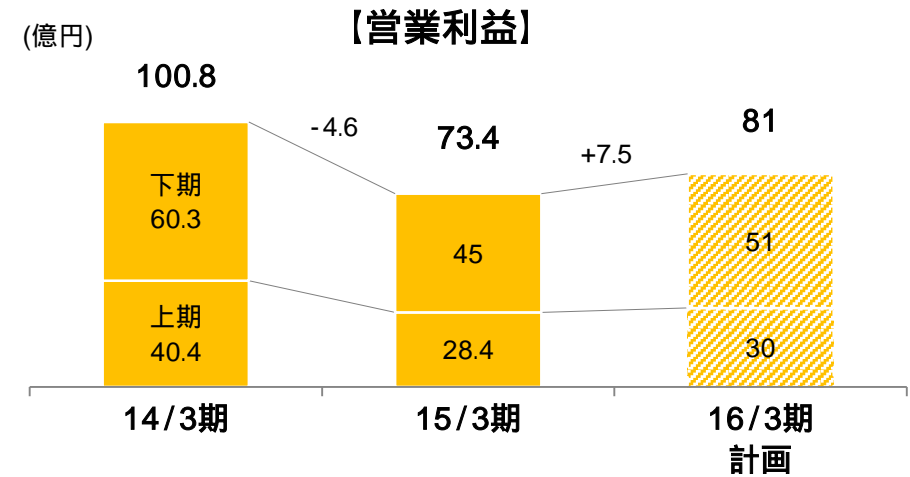
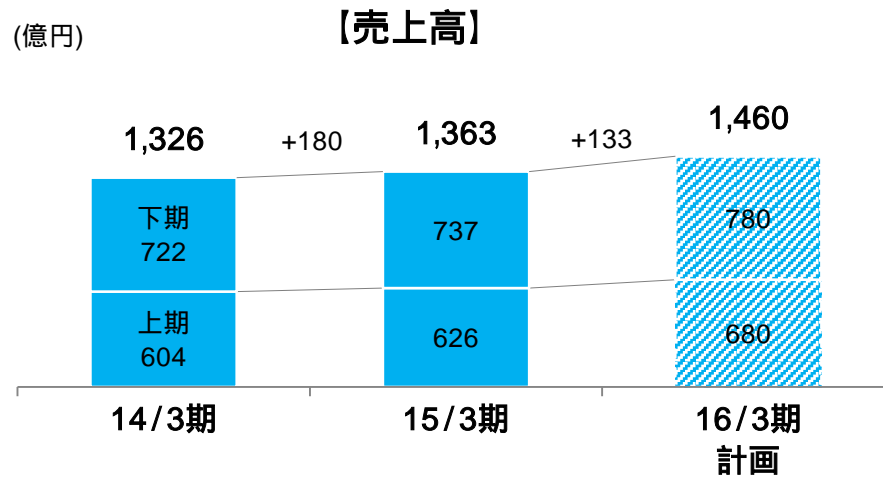


1-4Q		11/3期	12/3期	13/3期	14/3期	15/3期	16/3期	
							計画	前期比
新車	ホンダ	4,816	5,501	6,648	8,093	6,645	6,800	102.3%
	日産	15,673	16,005	18,311	20,081	15,716	15,920	101.3%
	その他ディーラー	85	1,664	2,459	2,944	4,757	7,231	152.0%
	輸入車インポーター	384	292	201	309	451	607	134.6%
	合計	20,958	23,462	27,619	31,427	27,569	30,558	110.8%
中古車	輸出台数	7,373	7,157	7,833	9,036	8,462	10,388	122.8%
	輸出以外	28,098	25,194	35,433	38,747	38,646	39,888	103.2%
	合計	35,471	32,351	43,266	47,783	47,108	50,276	106.7%
自動車販売台数		56,429	55,813	70,885	79,210	74,677	80,834	108.2%

2016年3月期 業績予想

前期のM&Aが寄与することで、売上高は、過去最高を更新する見込み

売上高は前期を上回るものの、依然厳しい販売環境が続くと考えられるため、利益面では、前年比微増の見込み。
新規連結会社の収益性の向上による更なる利益の積み上げに注力。

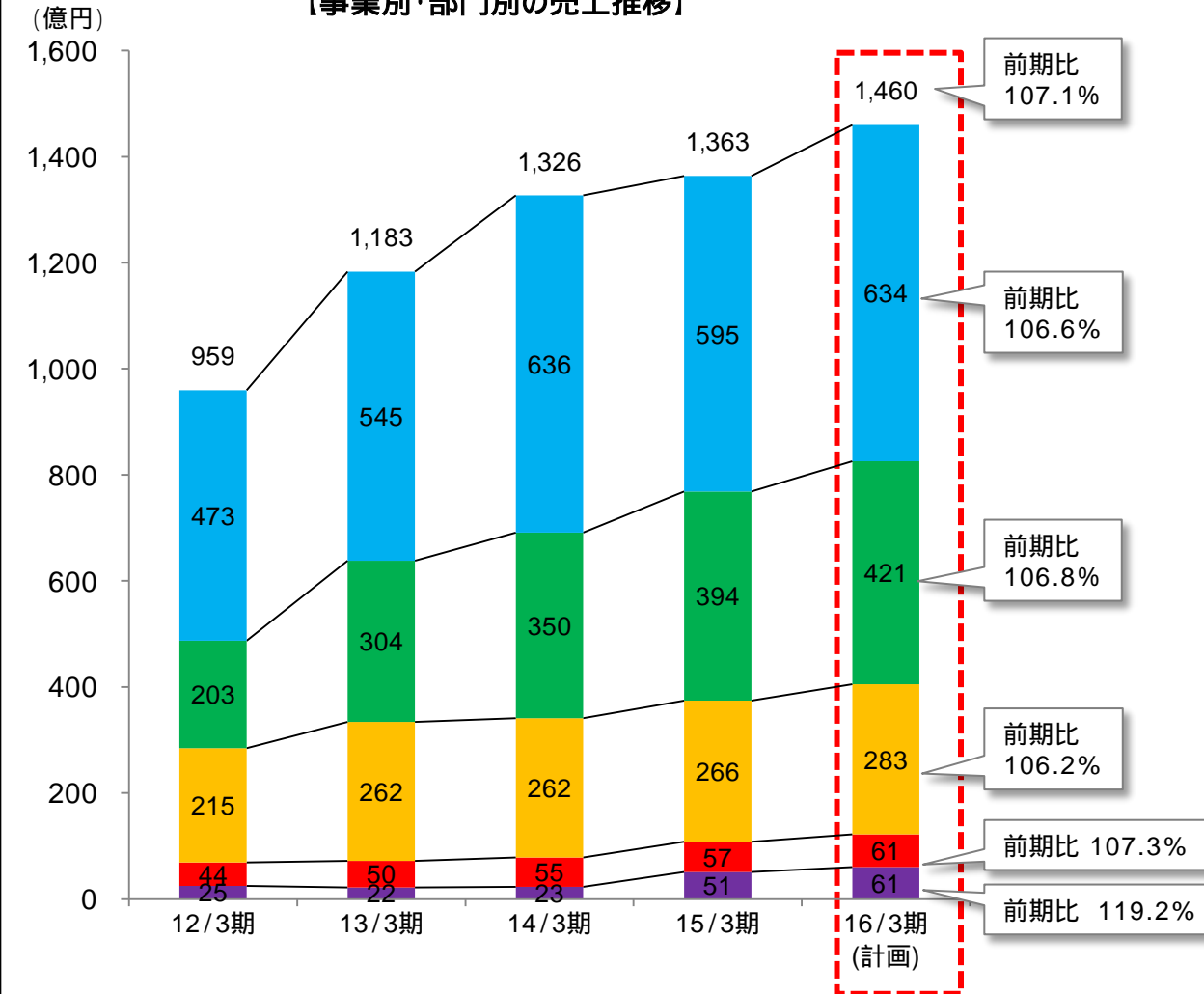


事業別・部門別売上高 計画

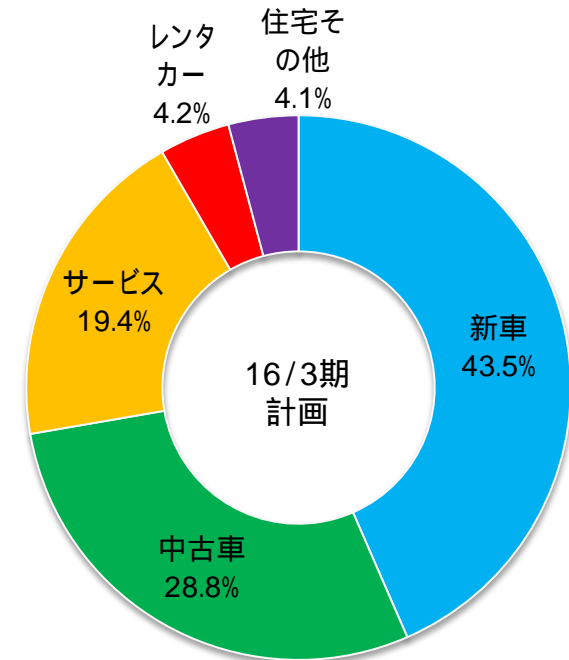
新規子会社の業績が通年で寄与し、各部門順調に伸長する見込み

部門別の売上高構成比は、ほぼ前期並みの予想

【事業別・部門別の売上推移】



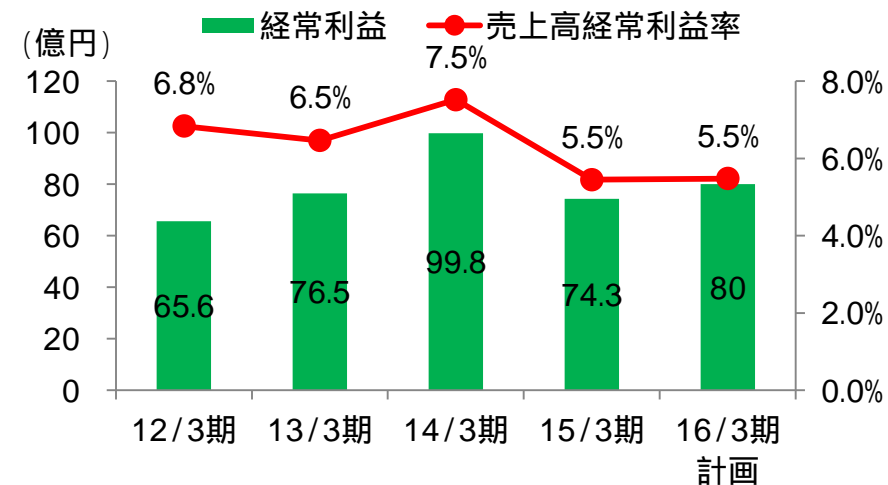
【事業別・部門別売上高構成】



中期経営目標

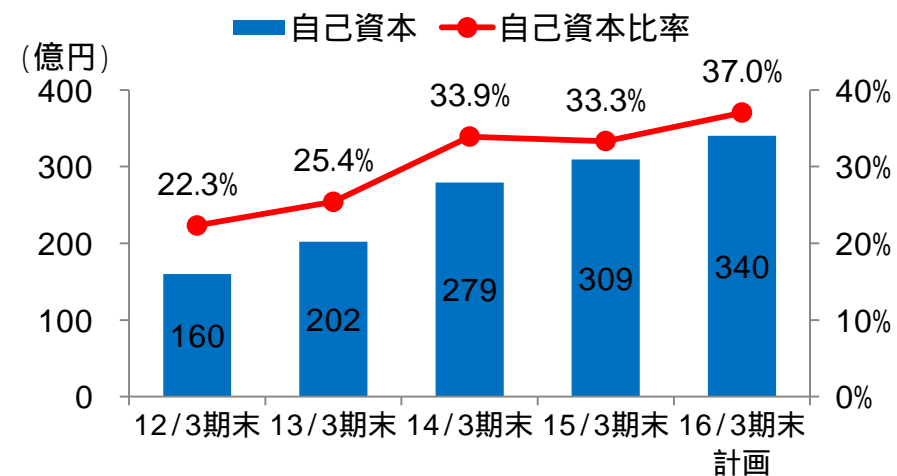
I 売上高経常利益率 8%以上

- 2015年3月期の経常利益率は、5.5%
- 当社グループ内で最も高い収益性を誇る長野日産自動車（経常利益率10.5%）をベンチマークに、グループ全体の収益性向上を図る
- M & Aにより子会社化した新会社の収益力を更に向上させること、中古車輸出事業とのシナジー創出、レンタカー事業の全国展開等がポイント



I 自己資本比率 40%以上

- 2015年3月期末の自己資本比率は、33.3%
- 自己資本蓄積のための収益性向上策は、上記のとおり
- 営業キャッシュフローの範囲内で投資効率の高いM & Aを実現し、事業規模拡大と負債圧縮の両立を図る



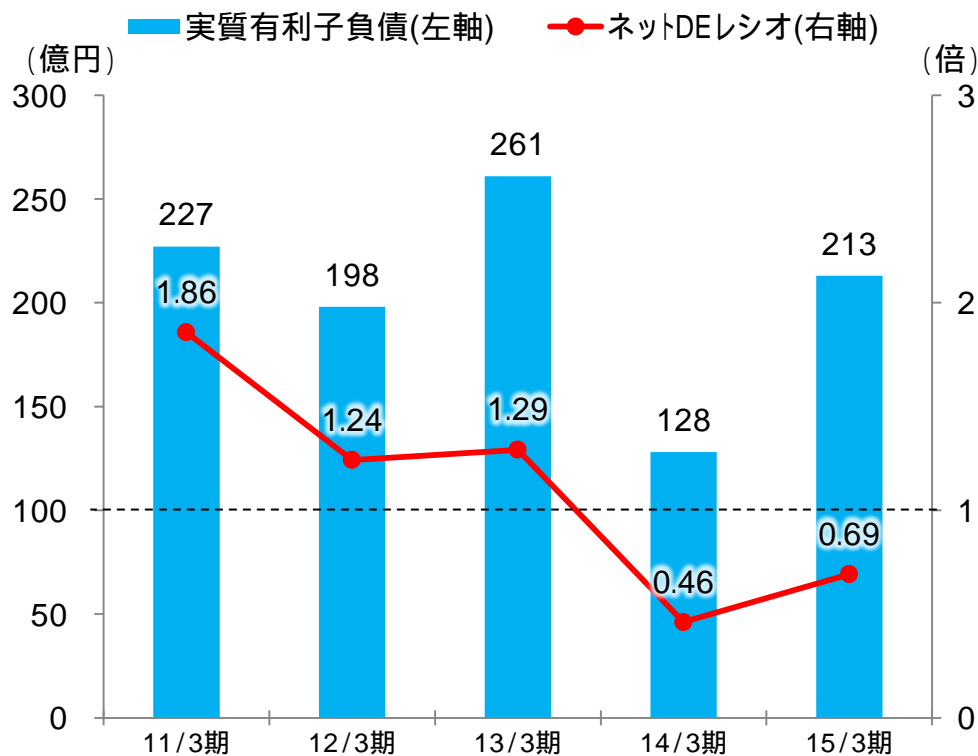
高い収益効率の実現により、事業規模の拡大と財務の安定性を両立させ、安定成長を目指す

実質有利子負債

積極投資による成長戦略を進めながらも、ネットDEレシオ1倍以下を維持

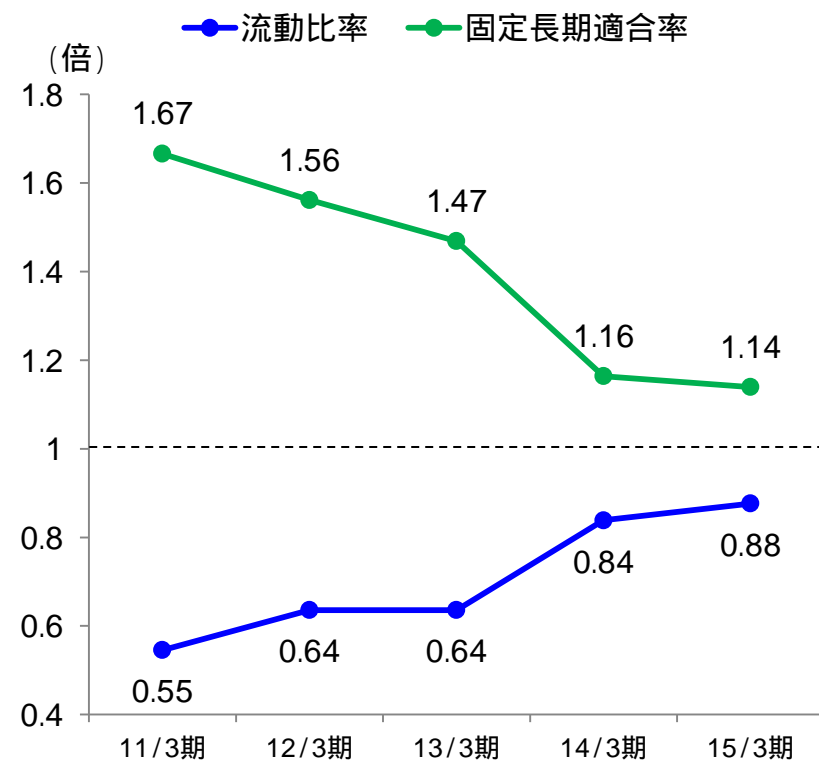
M&A、新規出店、移転、リニューアル等の投資により、有利子負債は増加

【実質有利子負債】



実質有利子負債 = 有利子負債 - 現預金
 ネットDEレシオ(実質負債資本倍率) = 実質有利子負債 ÷ 自己資本

【流動比率・工程長期適合率】

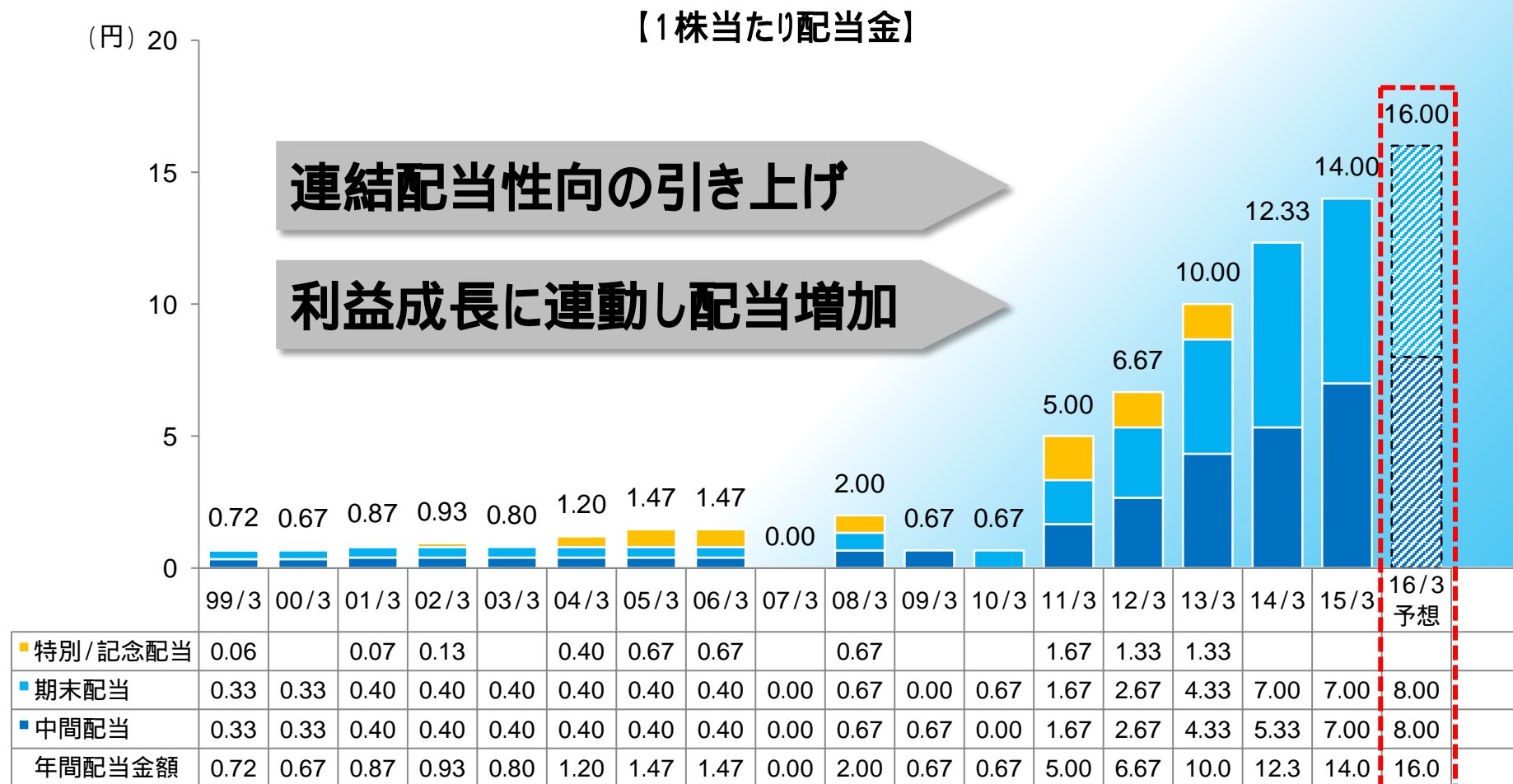


流動比率 = 流動資産 ÷ 流動負債
 固定長期適合率 = 固定資産 ÷ (固定負債 + 自己資本)

配当政策について

2015年3月期の配当金は、年間14円で連結配当性向35.5%

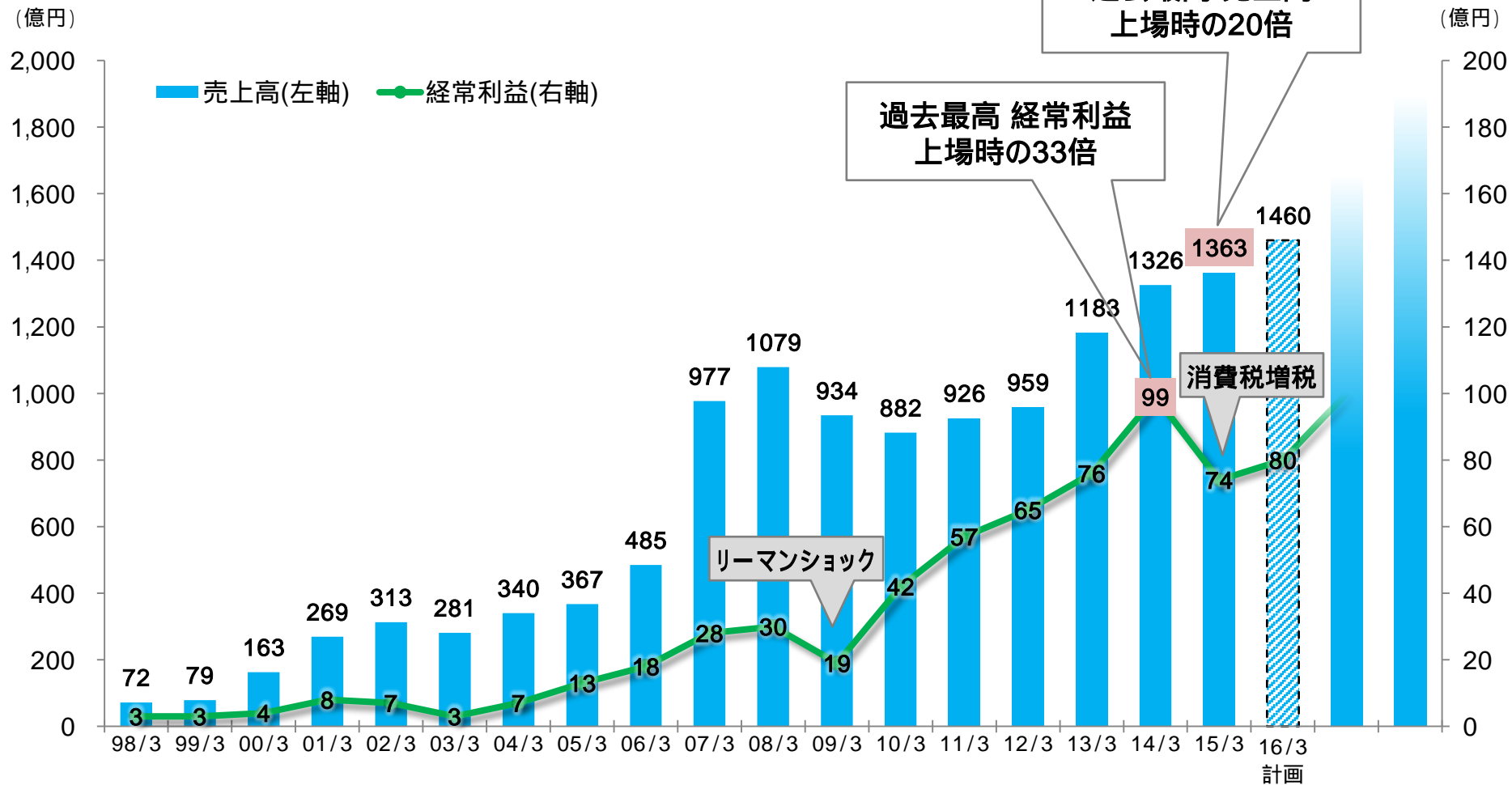
2016年3月期より、目標とする連結配当性向を30%から40%に引き上げ、利益還元のさらなる充実
その結果、2016年3月期は、中間8円、期末8円、年間16円（連結配当性向40.1%）と6期連続で増配の見込み



上記の配当金は、表示期間中に行われた株式分割を考慮し、現在の株数に換算（少数第3位を四捨五入）した金額を記載しております。

安定成長の実現に向けて

キャッシュフローの範囲内で継続的にM&Aに取り組み、『事業規模の拡大』
『収益性の向上』『財務体質の強化』のすべてのテーマをバランスさせた成長
シナリオを目指す



平成27年5月22日付で、東証1部・名証1部銘柄に指定されました。

当社は、株式会社東京証券取引所及び株式会社名古屋証券取引所の承認を受け、平成27年5月22日をもって、東京証券取引所JASDAQ市場より同市場第一部銘柄に、名古屋証券取引所市場第二部より同市場第一部銘柄に指定替えされることとなりました。



これもひとえに、株主の皆様をはじめ、お客様、お取引先様等、多くの関係者の皆様のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

今後も皆様方のご期待にお応えすべく、さらなる業容の拡大と企業価値の向上に努めてまいりますので、引き続き変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ディーラーを超えるディーラーへ

この資料は投資家の参考に資するため、VTホールディングス株式会社（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として当社が作成したものです。

当資料に記載された内容は、2014年5月19日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

投資を行う際は、投資家ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

本資料に関するお問合せ先

VTホールディングス株式会社

管理部総務グループ

T E L : 052-203-9500

H P : <http://www.vt-holdings.co.jp/>